

第1回

富士見町長期総合計画審議会

2026年6月22日

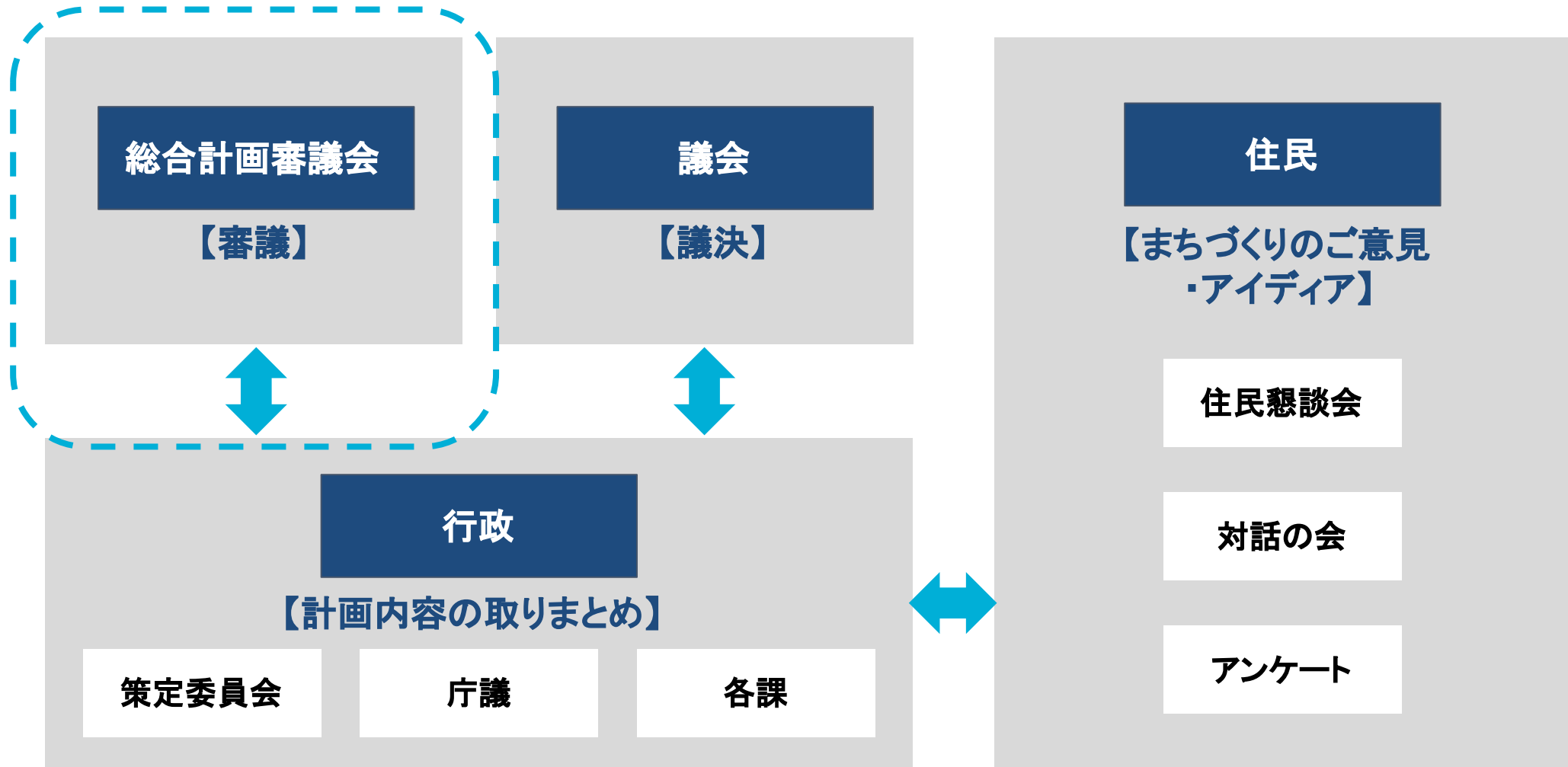
空の
恵みが
届く町



富士見町

Fujimi town

計画の策定体制



審議会ロードマップ

第1回
(6月)

第2回
(8月)

第3回
(11月)

第4回
(12月)

第5回
(1月)

目的

課題の共有

方向性の確認

計画案の確認

計画案の確認

答申の検討

審議内容

- 前期KPI進捗
- 住民懇、対話の会、アンケート
- 総合計画方向性案

- 総合計画骨子案

- 総合計画素案
- 行財政改革基本指針、アクションプラン

- 総合計画素案
- 住民懇談会での意見

- 総合計画現案
- パブリックコメント
- 答申案

求める意見

- 課題認識は妥当か
- 不足している住民の声はないか
- 方向性は適切か

- 方向性は適切か
- 優先順位は妥当か

- 施策、目的、KPIは適切か
- 行財政改革と整合性は取れているか

- 住民意見は十分に反映されているか
- 不足している視点や修正点はないか

- 分かりやすいか
- 将来に責任を持てる計画か
- 答申案として妥当か



地方自治体の役割 住民の福祉の増進

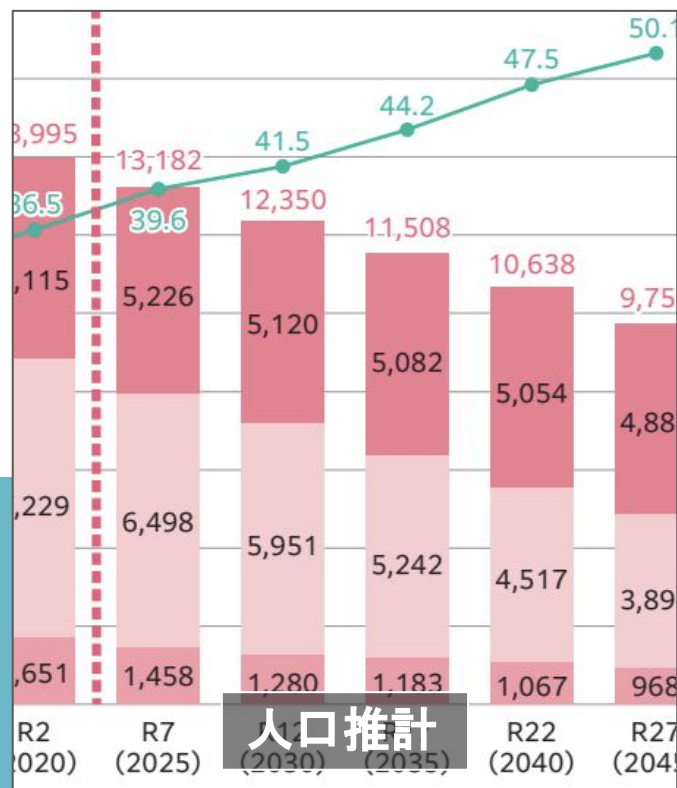
地方自治法第一条の二

地方公共団体は、住民の福祉の増進を図ることを基本として、
地域における行政を自主的かつ総合的に実施する役割を広く担うものとする



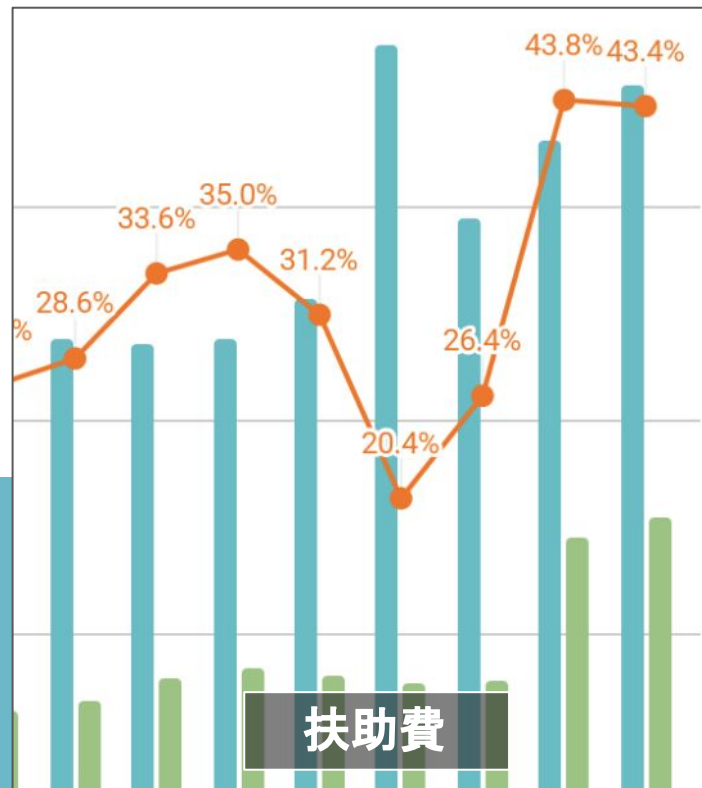
**役場は、今のままの体制・やり方で
10年後も皆さんの暮らしを
支え続けられると思いますか？**

富士見町の課題



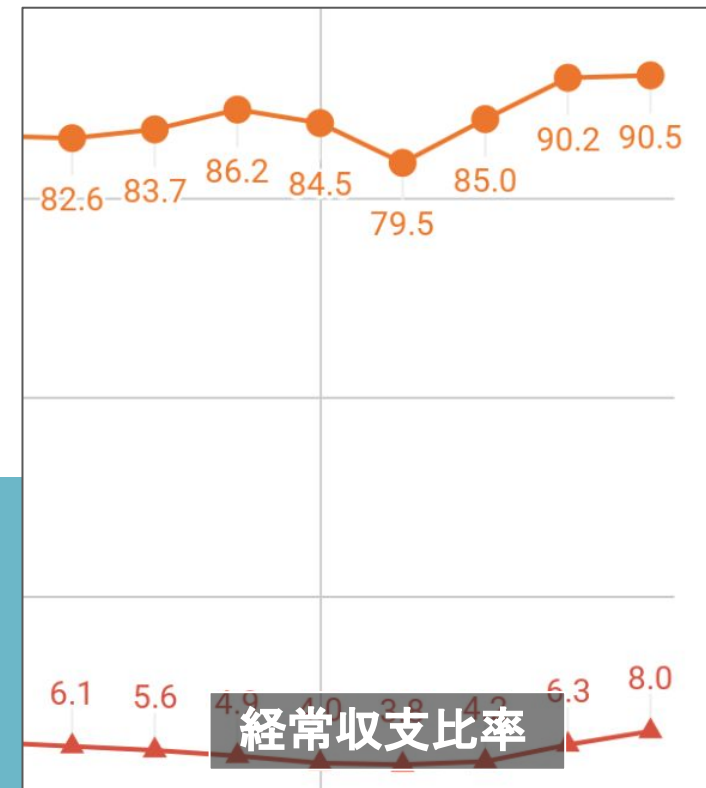
① 収入減

生産年齢人口減



② 支出増

公共施設/インフラ維持費・
扶助費増

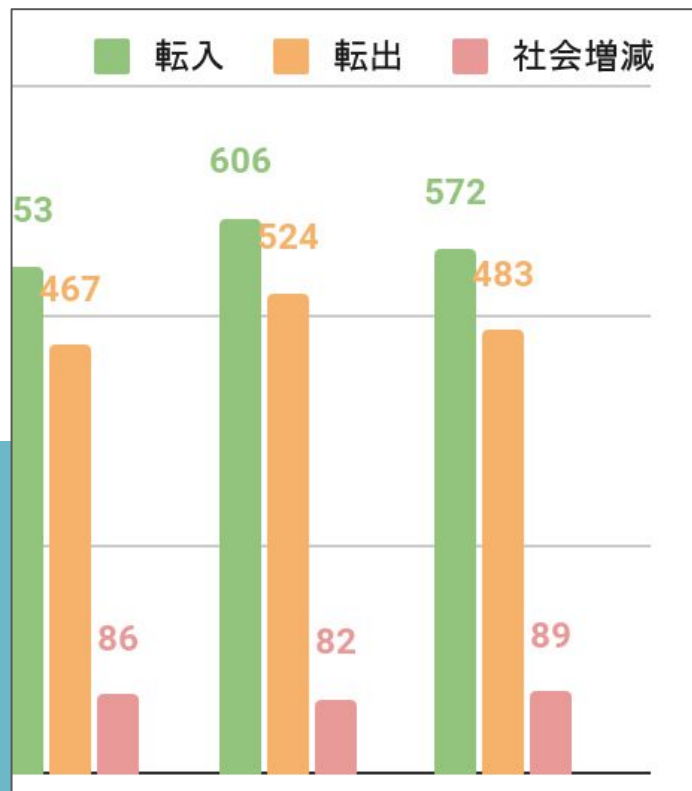


③ 行財政改革の 必要性

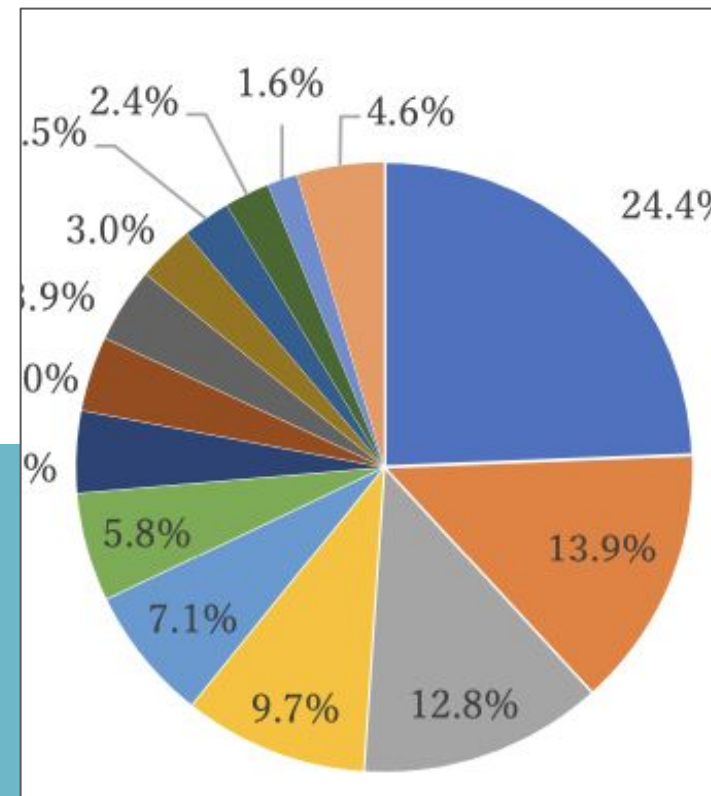
富士見町の可能性



① 本当の豊かさ



② 社会増



③ 産業基盤

共に創り、次世代につなぐ【選択と投資】

1

✓ 選択: 財政・人的な余力を創る

2

✓ 投資: 人と産業に投資し、収入を確保



3

✓ 全ての世代の暮らしを支え続ける財源を生み出す

「共に創る」

対話・自分ごと化・提案・協働のまちづくり

1

✓ 住民ニーズに合った制度設計

建設的な意見には情報が必要、町の計画など情報は住民のもの

2

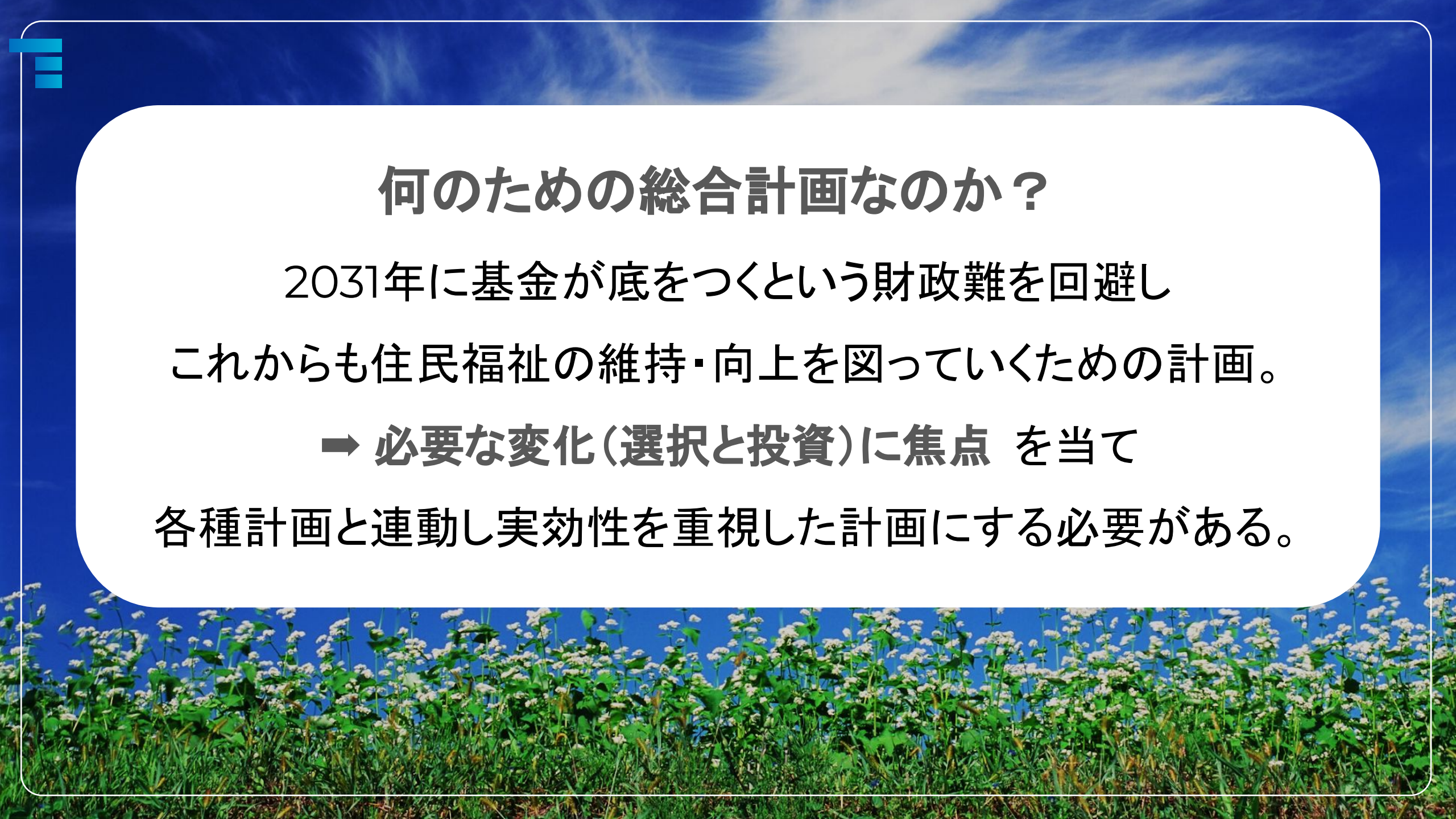
✓ 対立の構造や事業中断を生まない

急がば回れ(事業中断による時間や税金のロスが大きい)

3

✓ 住民のまちづくりの自分ごと化

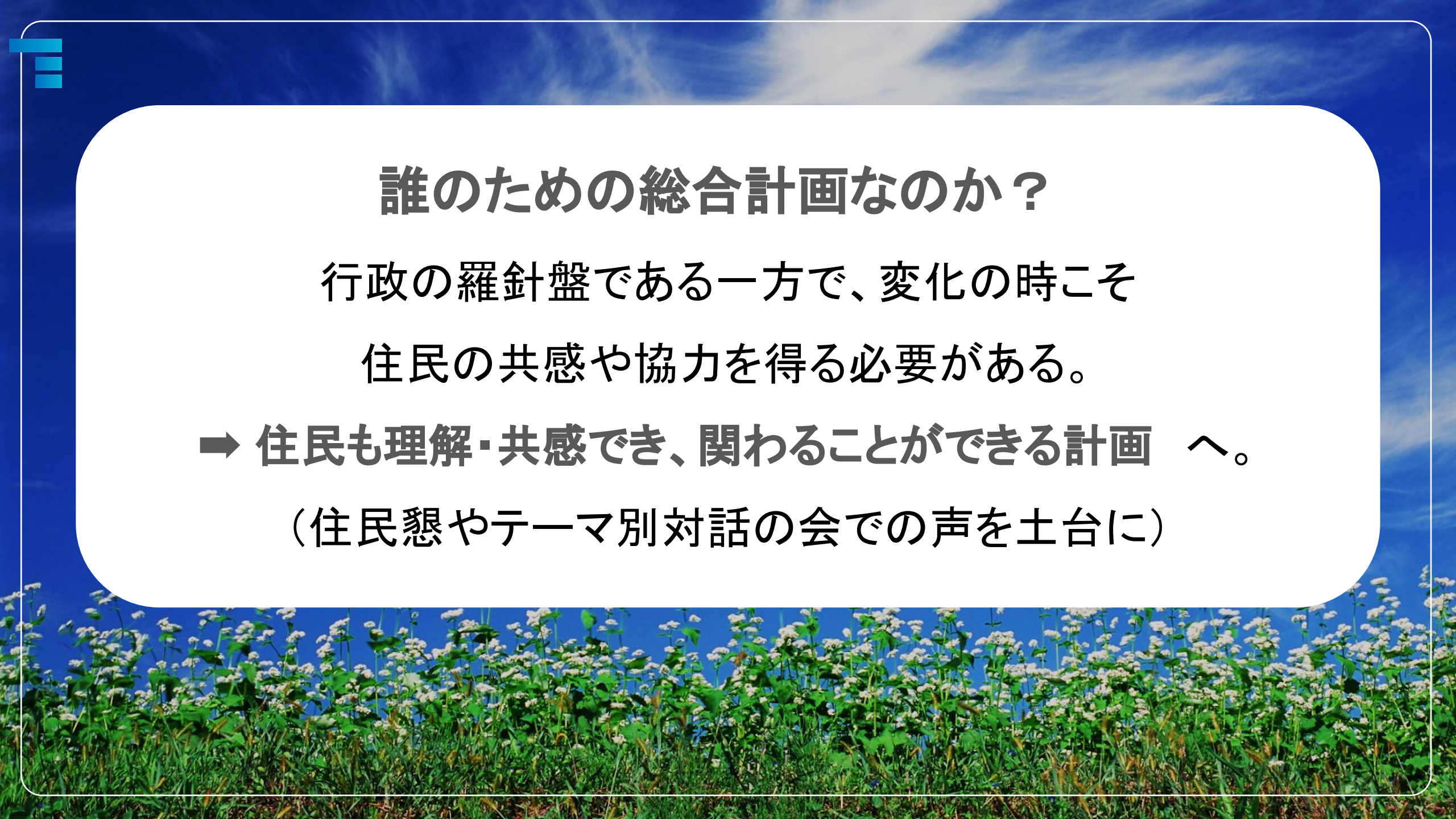
行政だけで全てを担えない

A background image showing a clear blue sky with wispy white clouds at the top, and a field of green plants with small white flowers in the foreground.

何のための総合計画なのか？

2031年に基金が底をつくという財政難を回避し
これからも住民福祉の維持・向上を図っていくための計画。

➡ **必要な変化(選択と投資)に焦点** を当て
各種計画と連動し実効性を重視した計画にする必要がある。

A background image showing a clear blue sky with wispy white clouds at the top, and a field of green plants with small white flowers in the foreground.

誰のための総合計画なのか？

行政の羅針盤である一方で、変化の時こそ
住民の共感や協力を得る必要がある。

➡ 住民も理解・共感でき、関わることができる計画 へ。

（住民懇やテーマ別対話の会での声を土台に）

01 前期計画 KPI進捗確認

02 アンケート・対話の会

03 後期計画の方向性(案)

空の
恵みが
届く町



富士見町

Fujimi town

01

前期計画 KPI進捗確認

02

アンケート・対話の会

03

後期計画の方向性(案)

空の
恵みが
届く町

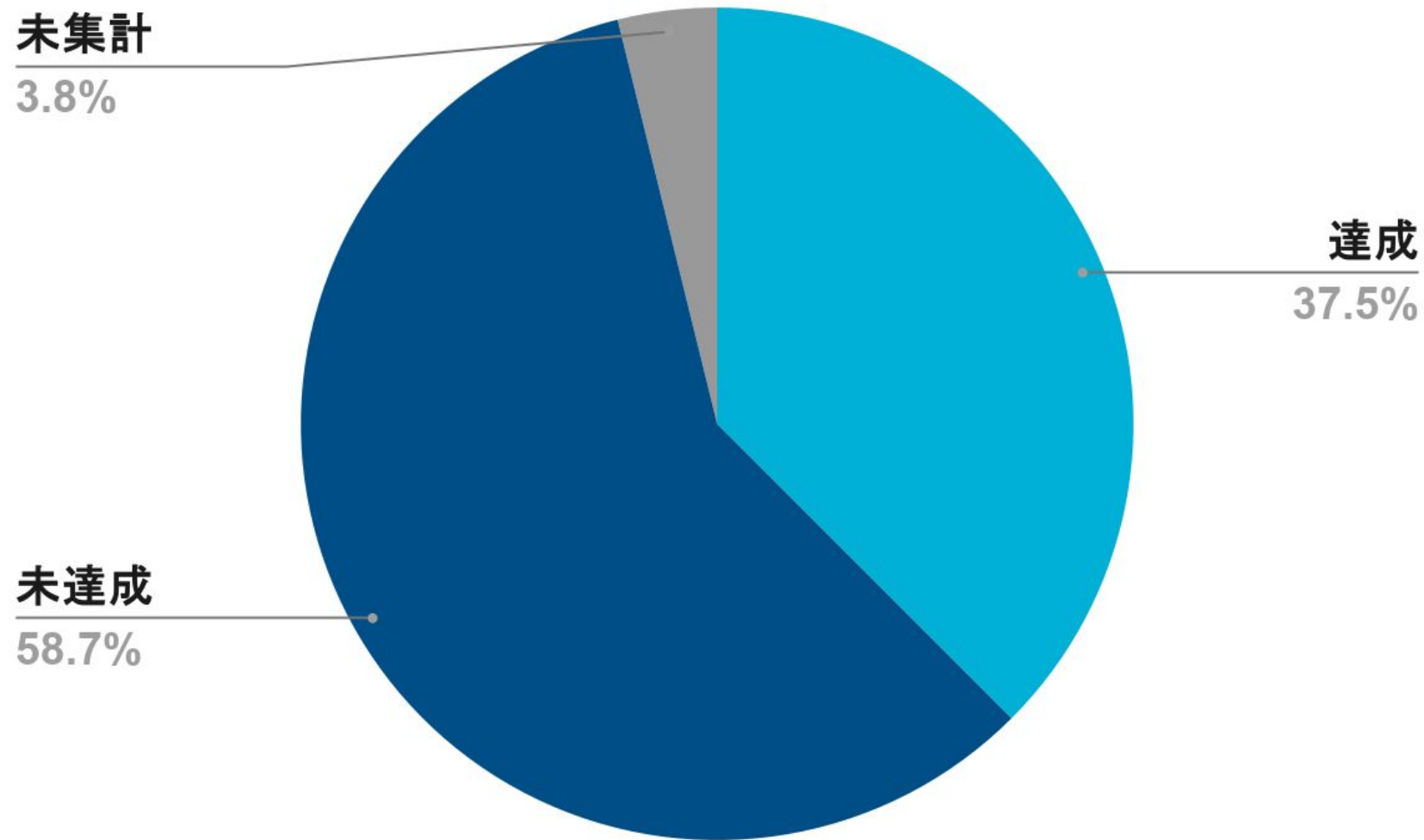


富士見町

Fujimi town

前期指標の達成率(2026年6月22日時点)

104のKPIの内、達成が37.5%、未達成が58.7%で、未達成が多い状況



KPI【達成】施策

達成率100%を越えている施策が 32件ある

指標名 (アンケート項目)	単位	当時の実績値	目標値	実績① (2024年)	実績② (2025年、アンケート結果)	達成率
地域共生センターふらっと施設来場者数	人/年	0	7,200	30,643	30,635	425.5%
地域共生センターふらっとにおける相談対応件数	件/年	0	540	1,037	2,114	391.5%
家族に住み続けることをすすめられた高校生の割合	%	11.20	25.00		54.30	217.2%
橋梁の修繕	橋/5年	3	10	7	21	210.0%
まちづくり支援金の支援団体	団体	8	40	52	66	165.0%
ふるさと納税寄付金額	千円/年	229,803	300,000	429,749	494,981	165.0%
まるかじり探検隊の参加人数	人/年	62	80	159	127	158.8%
防災アプリ加入者数（富士見防災行政ナビ）	人	1,594	3,000	3,454	4,311	143.7%
地域の消防団による活動が活発に行われている	4が最高、1が最低	2.30	2.50		3.20	128.0%

KPI【未達成】施策

達成率50%を下回る施策が 9件ある

指標名 (アンケート項目)	単位	当時の実績値	目標値	実績① (2024年)	実績② (2025年、アンケート結果)	達成率
就労移行支援における一般就労への移行者数	人	0	2	0	0	0.0%
宅地造成支援件数	件/年	-	9	8	0	0.0%
富士見駅前商店街の環境整備計画の策定	-	未策定	策定	-	未作成	0.0%
都市計画道路の整備（役場通り線）	m	215	306	用地交渉	用地交渉	0.0%
耐震改修補助件数	件/年	2	5	2	1	20.0%
町外企業の誘致数	社/4年	0	4	0	1	25.0%
富士見町既存住宅エネルギー自立化補助件数	件/年	6	15	4	6	40.0%
オンライン化事務手続き	手続き	1	13	1	6	46.2%
出生数	人	58	81	40	38	46.9%



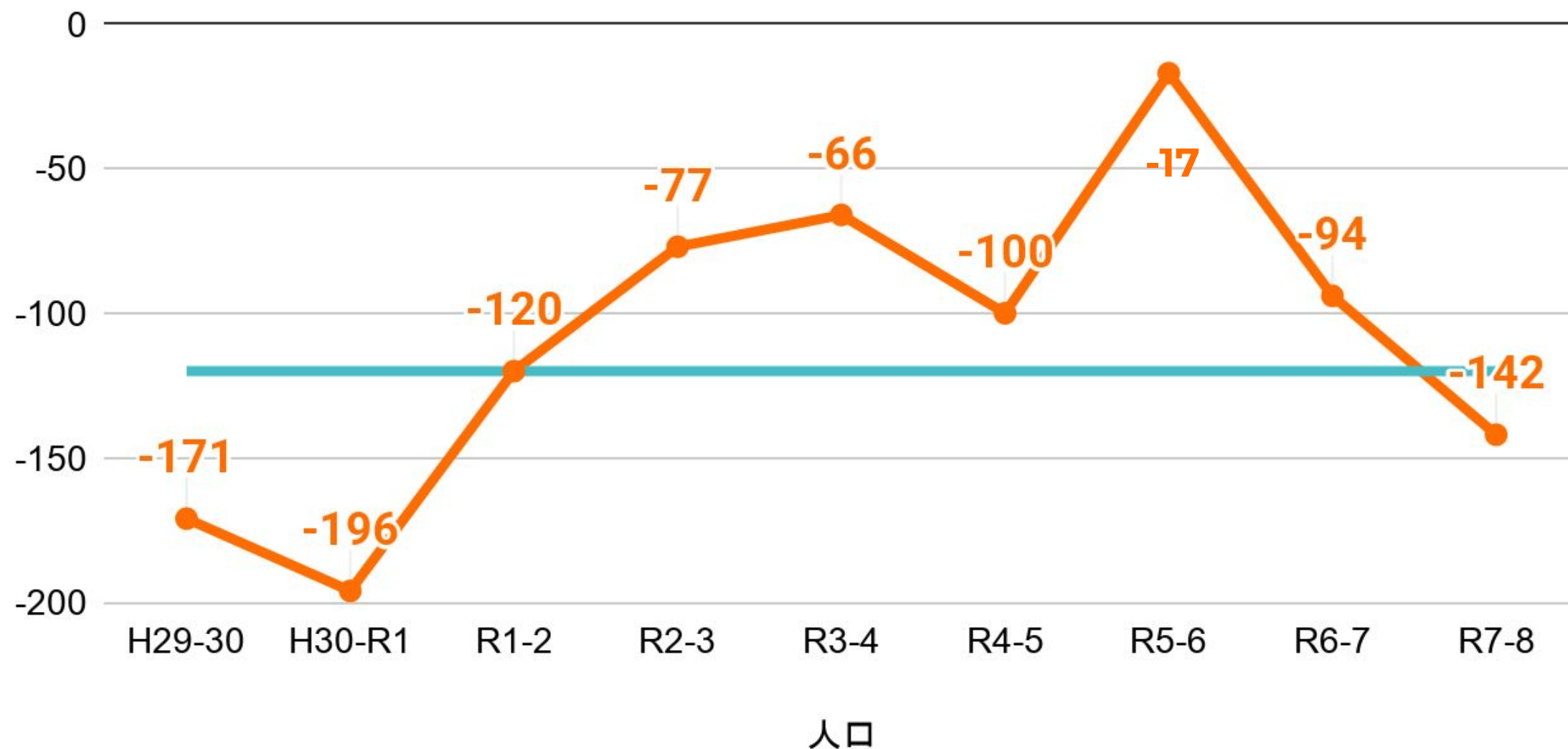
KPI【未達成】重要施策

人口や財政に関する重要な施策の達成率が低い⇒後期で解決すべき課題

指標名	単位	2020年の実績値	目標値	実績① (2024年)	*国勢調査速報値
総人口 (2045年時点で11,000人、2026年時点で13,275人)	人	13,995	2045年11,000人 2026年13,275人	13,370	

指標名 (アンケート項目)	単位	当時の実績値	目標値	実績① (2024年)	実績② (2025年、アンケート結果)	達成率
町外企業の誘致数	社/4年	0	4	0	1	25.0%
オンライン化事務手続き	手続き	1	13	1	6	46.2%
出生数	人	58	81	40	38	46.9%
定住者数	人/年	56	60	71	39	65.0%
経常収支比率	%	79.5	80	90.2	90.5	-10.5ポイント
自然動態と社会動態の差引	人	-67	-120	-94	-142	-22人

富士見町1年当たり人口減少数推移

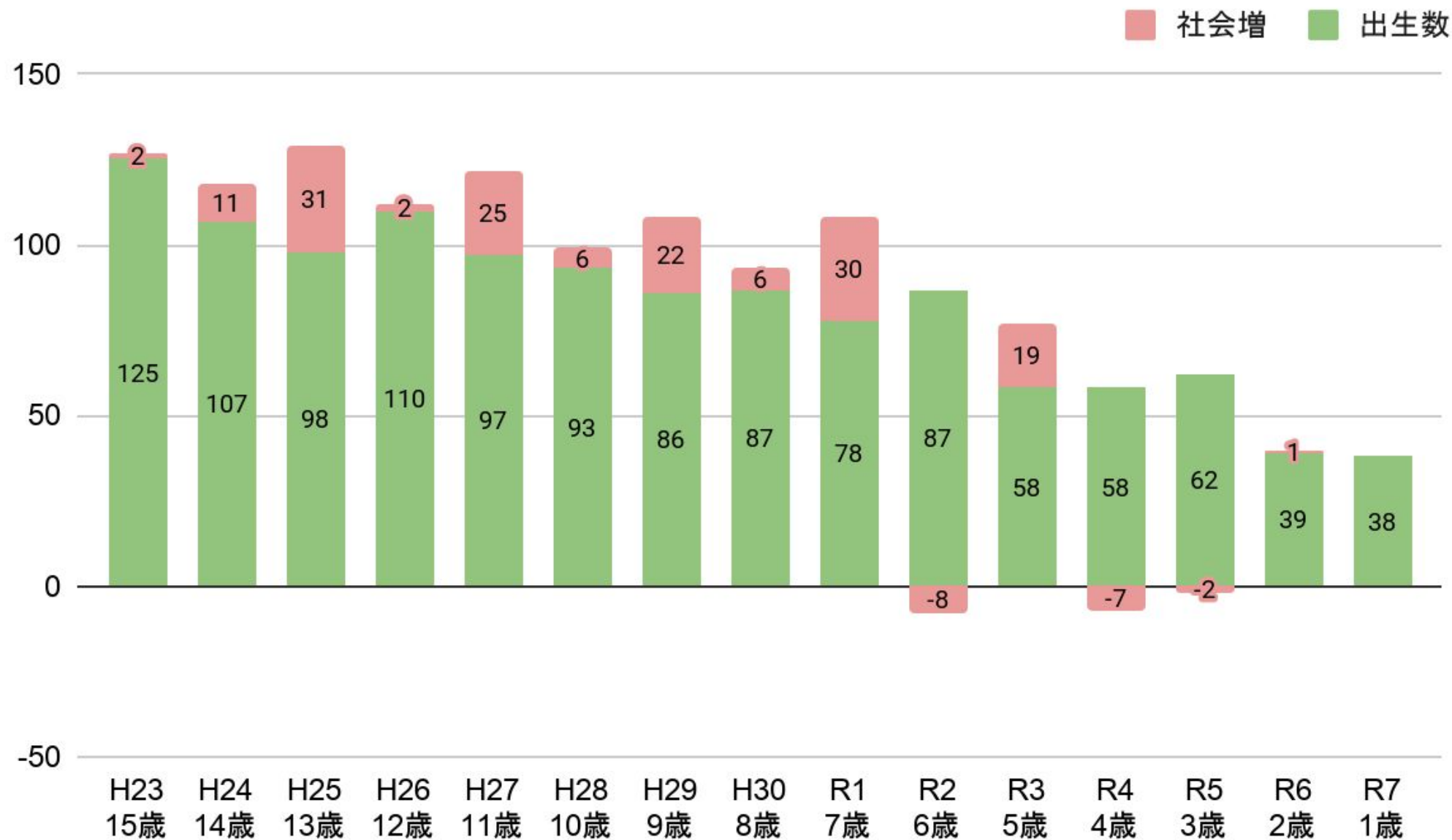


● 全町 — 目標値-120人

*富士見町
人口集計表から算出

富士見町の毎年の出生数と R8年4月1日児童数

*R8年4月1日時点の
富士見町人口集計表から作成

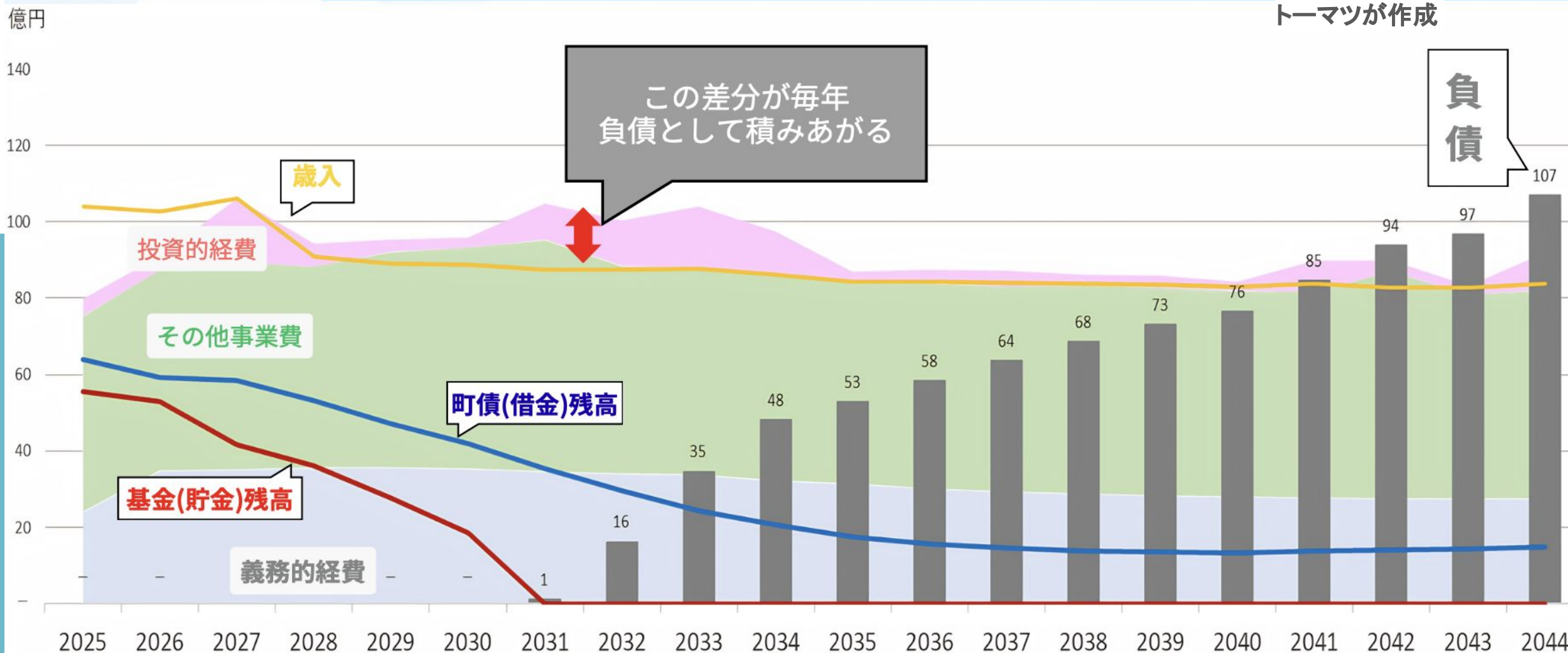




富士見町の財政状況

財政シミュレーション 2025 (R7) ~ 2044 (R26)

物価変動・人口推計
富士見町公共施設等総合管理計画
過去5年の決算統計等に基づき
トーマツが作成



財政状況から見える課題と目指す姿

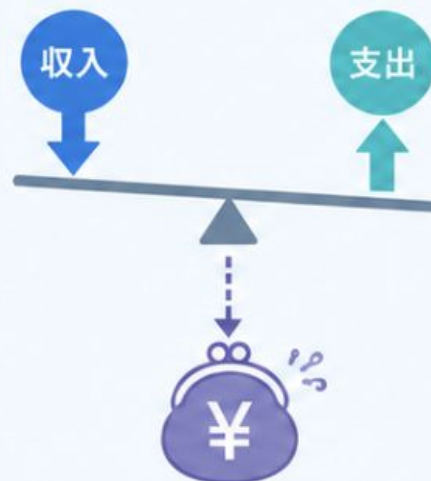
単年度の節約だけではなく、歳入・歳出の構造そのものを見直す必要があります。

課題

- 1  基金に頼る
財政運営からの転換
- 2  経常的な支出の見直し
- 3  投資的経費の重点化
- 4  公共施設・インフラの
適正管理
- 5  自主財源の確保
- 6  住民にわかりやすい
説明と合意形成

現状

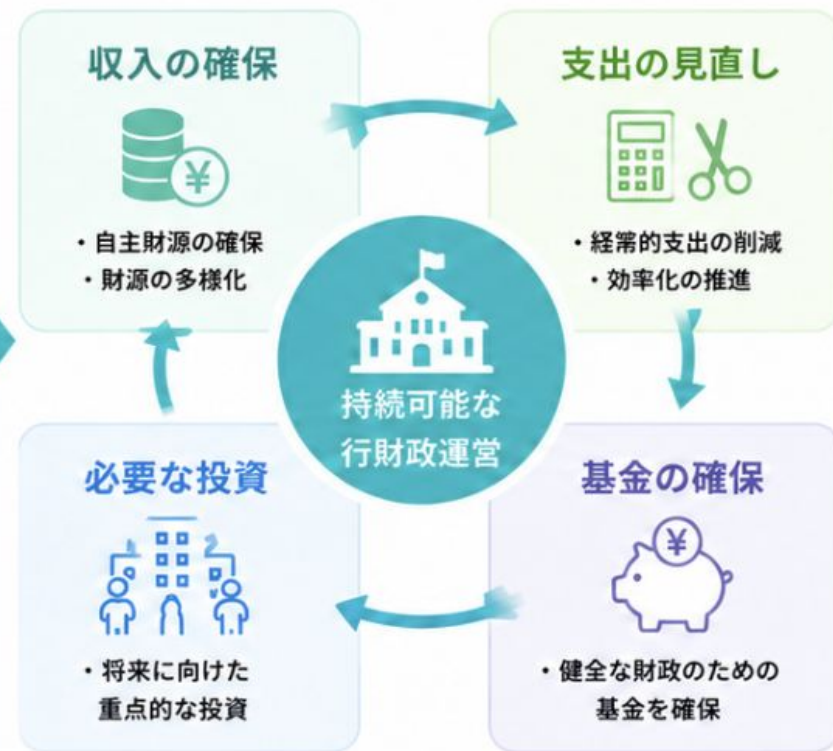
不足分を 基金で補う



基金を取り崩して補填
このままでは基金が減少し、
将来的に枯渇するおそれがあります。

目指す姿

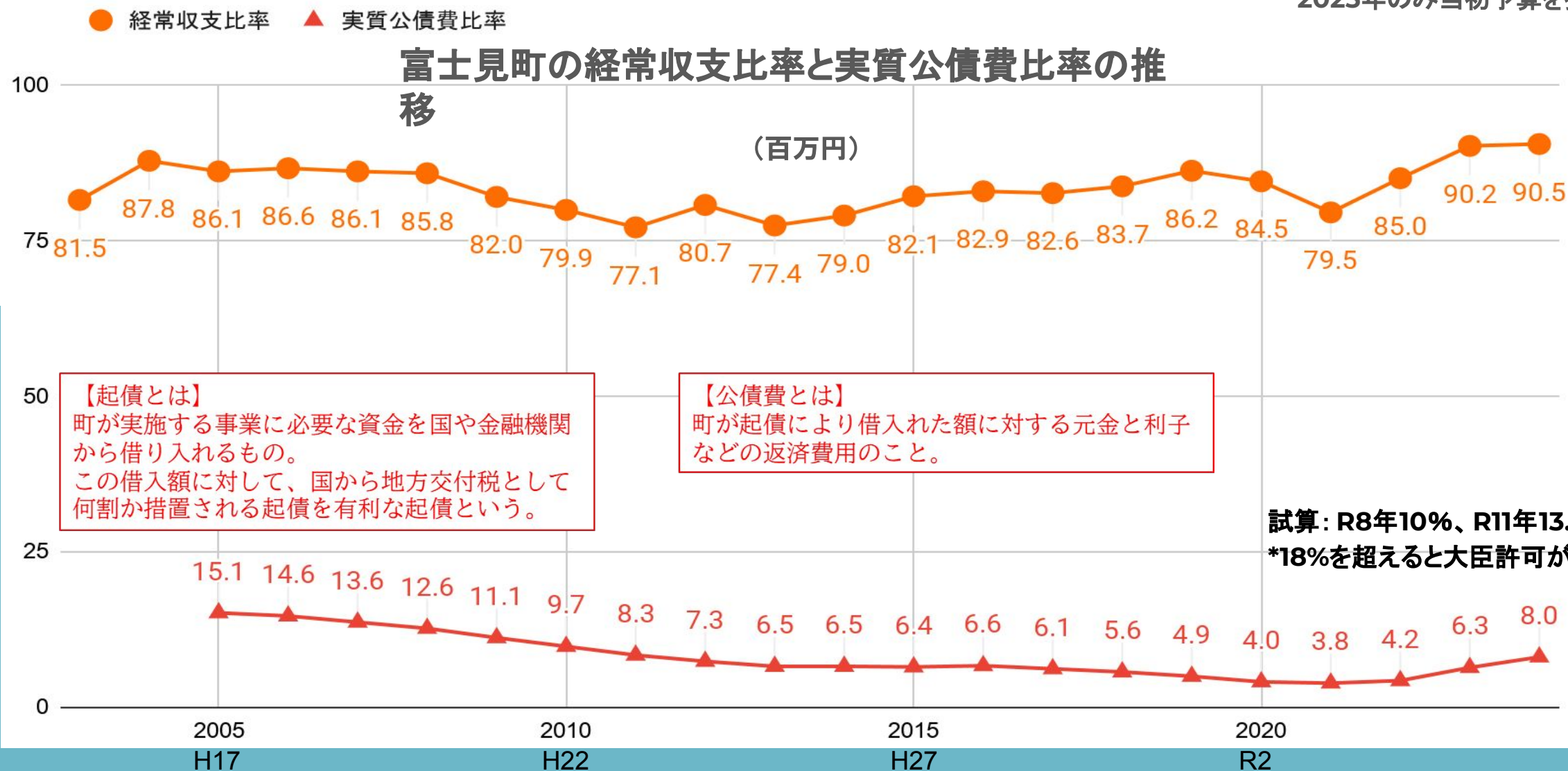
持続可能な行財政運営へ



住民との対話による理解と信頼のもと、共に未来をつくる行財政改革を推進します。

経常収支比率と実質公債費比率

富士見町決算カードより作成
*2025年のみ当初予算を掲載



最終目標（KGI）

経常収支比率

85%

自由に使える財源を確保するための目標

70～80%が適正值

R6末時点：90.5%

・比率が100に近づくほど
財政が硬直化する

計算式

$$\text{経常収支比率} = \frac{\text{経常的に収入する一般財源（経常的な収入）}}{\text{経常的に支出する経費（経常的な支出）}} \times 100$$

・70～80%が適正值

実質公債費比率

14%

将来世代への借金負担を抑えるための目標

18%から自動的に借入ができなくなる

R6末時点：8.0%

・実質公債費比率＝

計算式

$$\frac{\text{標準財政規模（自由に使える収入の目安）}}{\text{公債費（借金の返済額）}} \times 100$$

・現状は安全圏だけど
R11には13.5%に達し
ピークアウトする（推計）

基金残高

20億円以上

災害や財源変動に備える貯金の目標

※財政調整基金と減債基金の合計額

R6末時点：約2.7億円

アクションプラン重点取組10項目

※KGI達成のための行動計画

① 中長期財政マネジメントの確立



② 事務事業の総点検と構造改革



③ 補助金・負担金の適正化と重点化



④ 公債管理の適正化と将来負担の抑制



⑤ 自主財源の確保と財源多様化



⑥ 受益者負担の適正化と説明責任の徹底



⑦ 効率的な組織体制と人材マネジメントの確立



⑧ 根拠に基づく政策形成の推進（EBPM）



⑨ DXの推進による業務効率化と住民サービス向上



⑩ 公共施設マネジメントの推進





**地域活動、共生社会づくり、防災、観光振興など
「暮らしの質」を高める分野では大きな成果が見られた。
一方で、出生数、移住・定住、住宅確保、企業誘致など人口減少
対策に直結する分野では目標達成に至らず、経常収支比率も悪化。**

**町民の暮らしを今後も支え続けていくために
後期計画では『人口減少対策』『住宅・仕事・教育への投資』
『行財政改革による財源確保』を重点化する必要がある。**

01 前期計画のKPI進捗確認

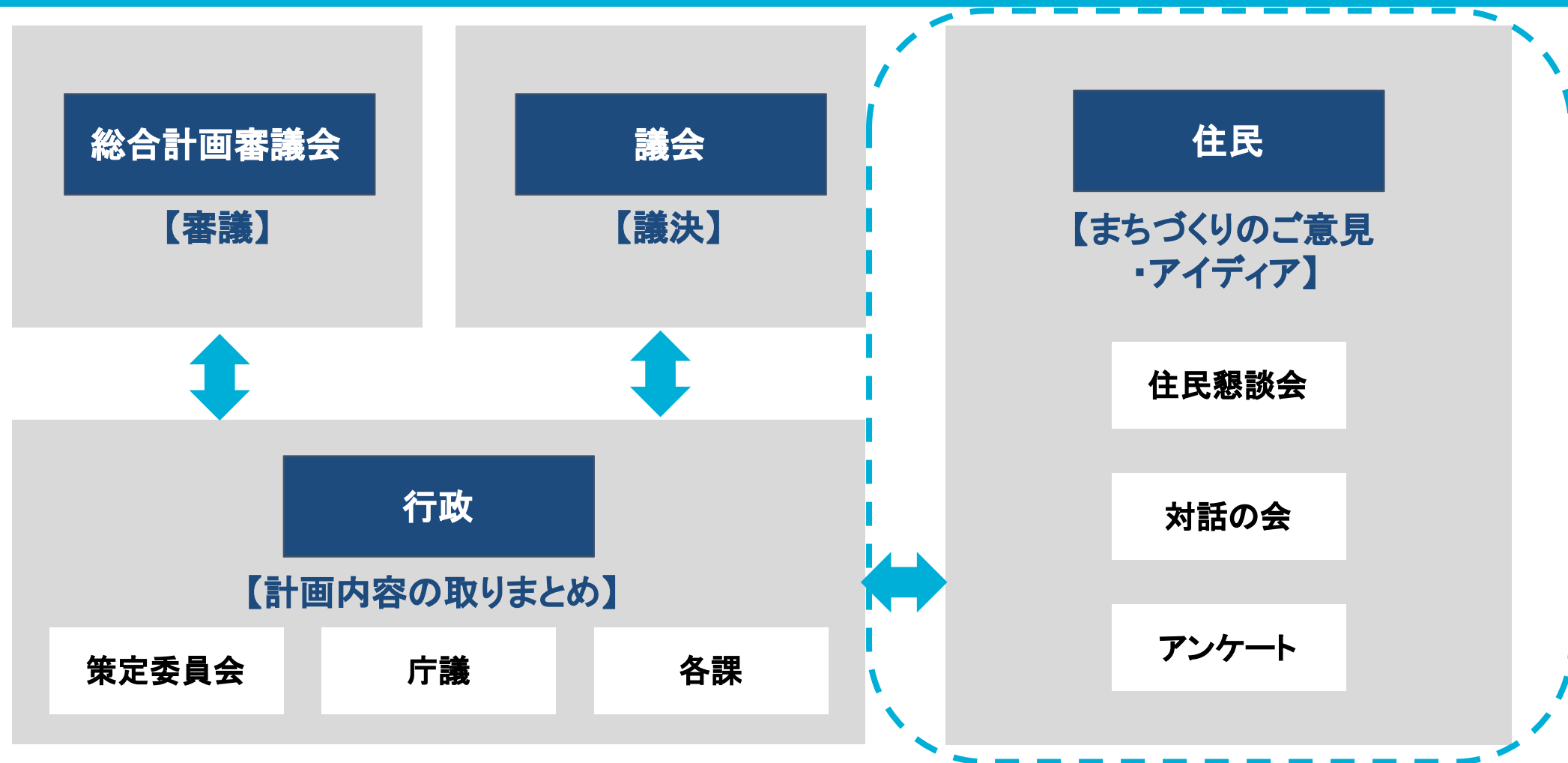
02 対話の会・アンケート

03 後期計画の方向性(案)



計画の策定体制

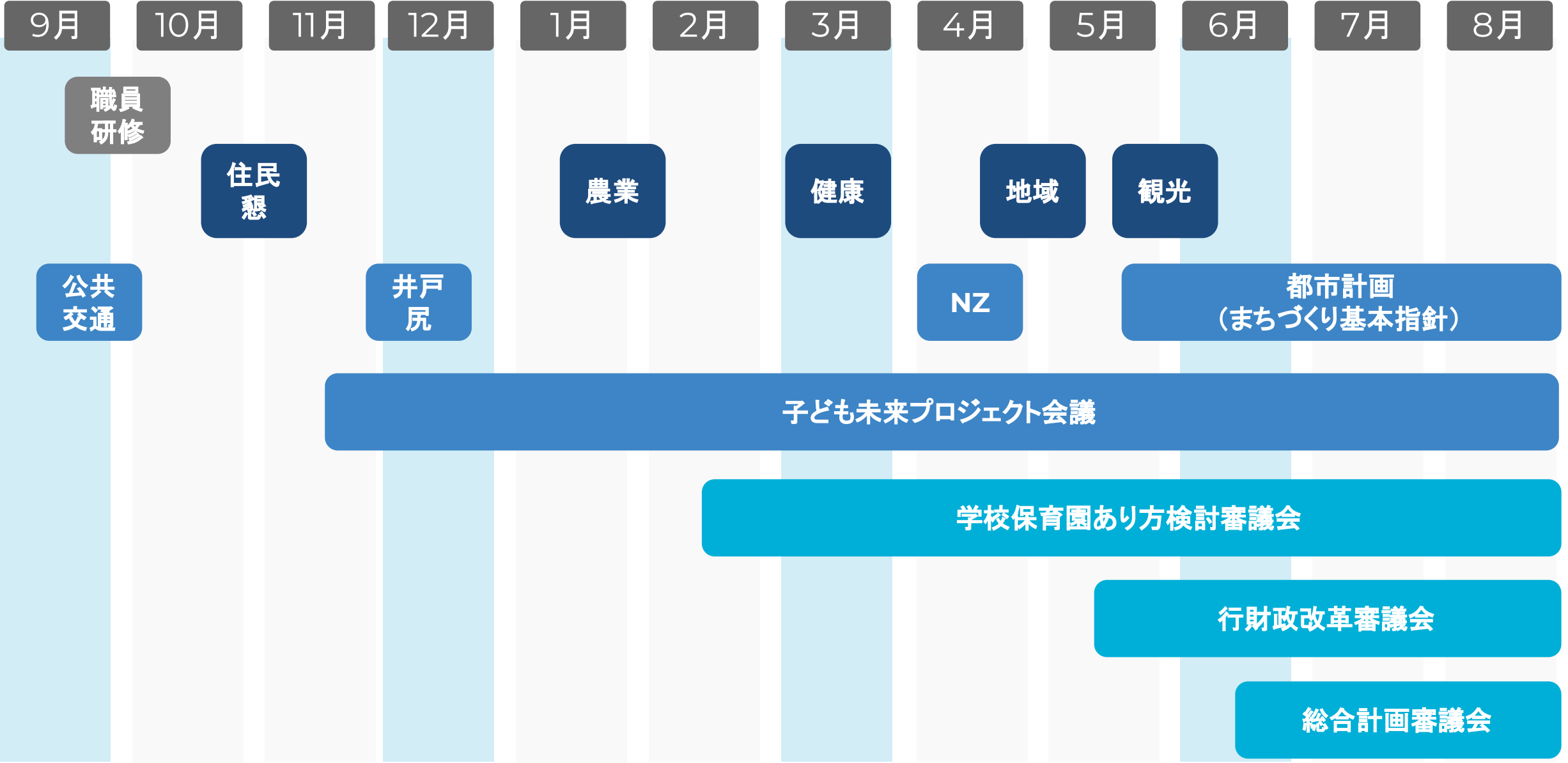
住民懇・対話の会での 305名による1,301件の声
784件のアンケート回答に基づいた総合計画



対話の会 年間スケジュール

2025/R7年

2026/R8年

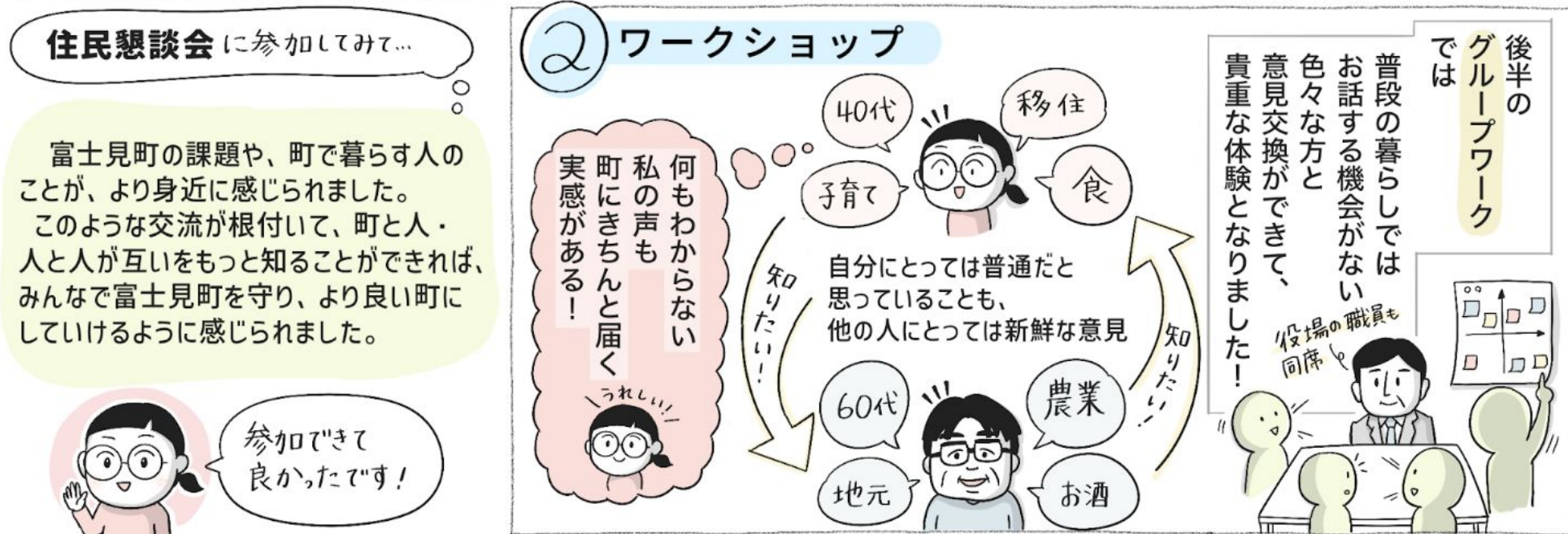
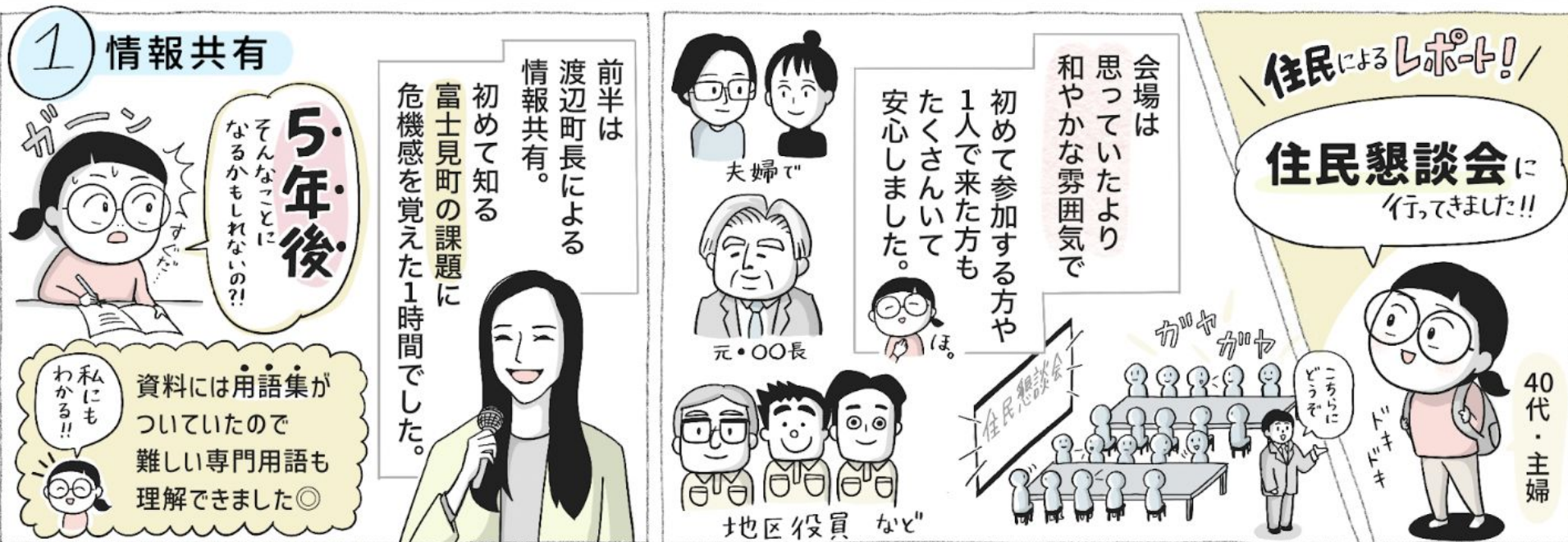




住民懇談会 計181名参加

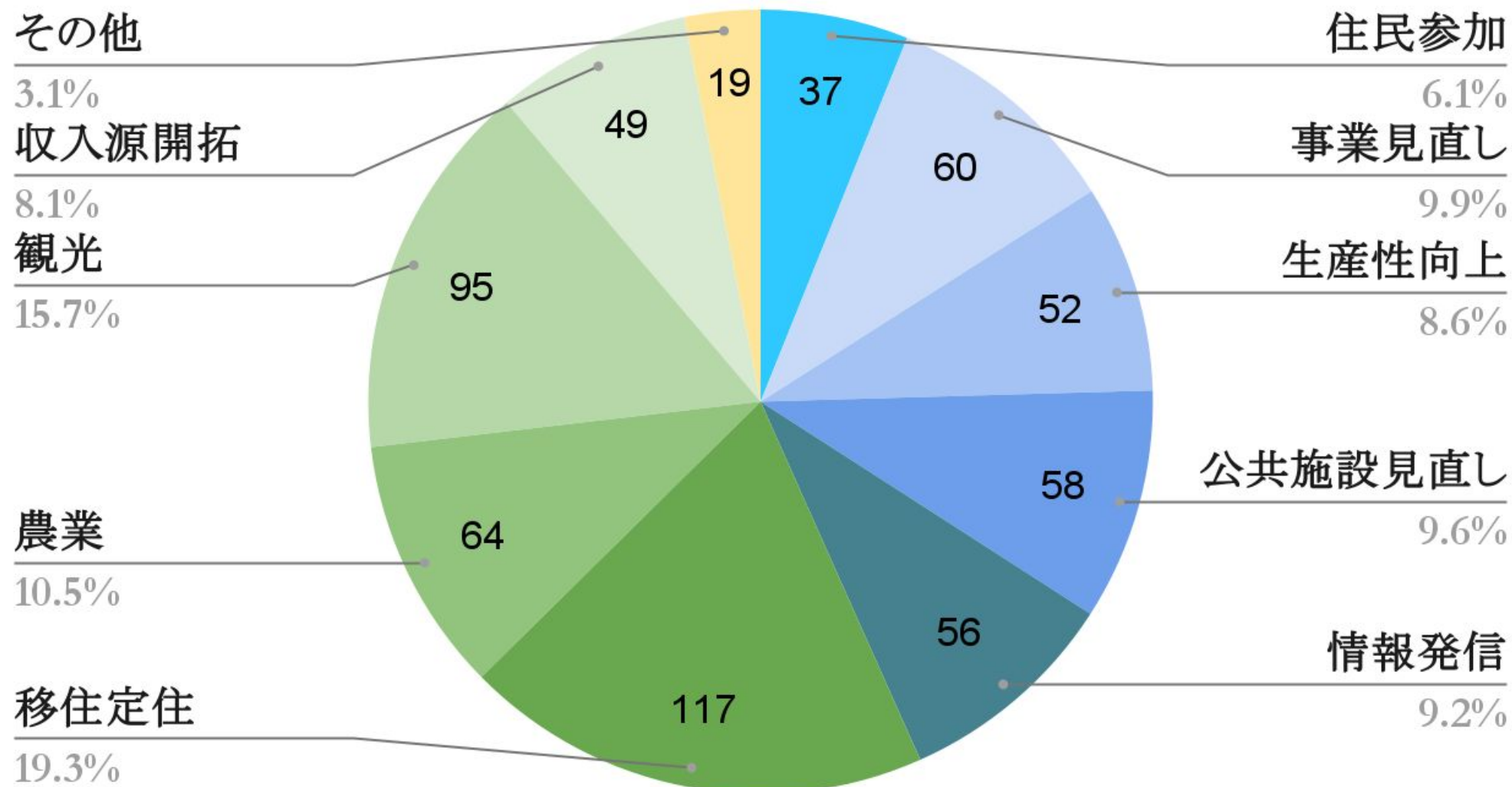
ポストイット総数 607枚、アンケート回答 112件(回答率 61.9%)





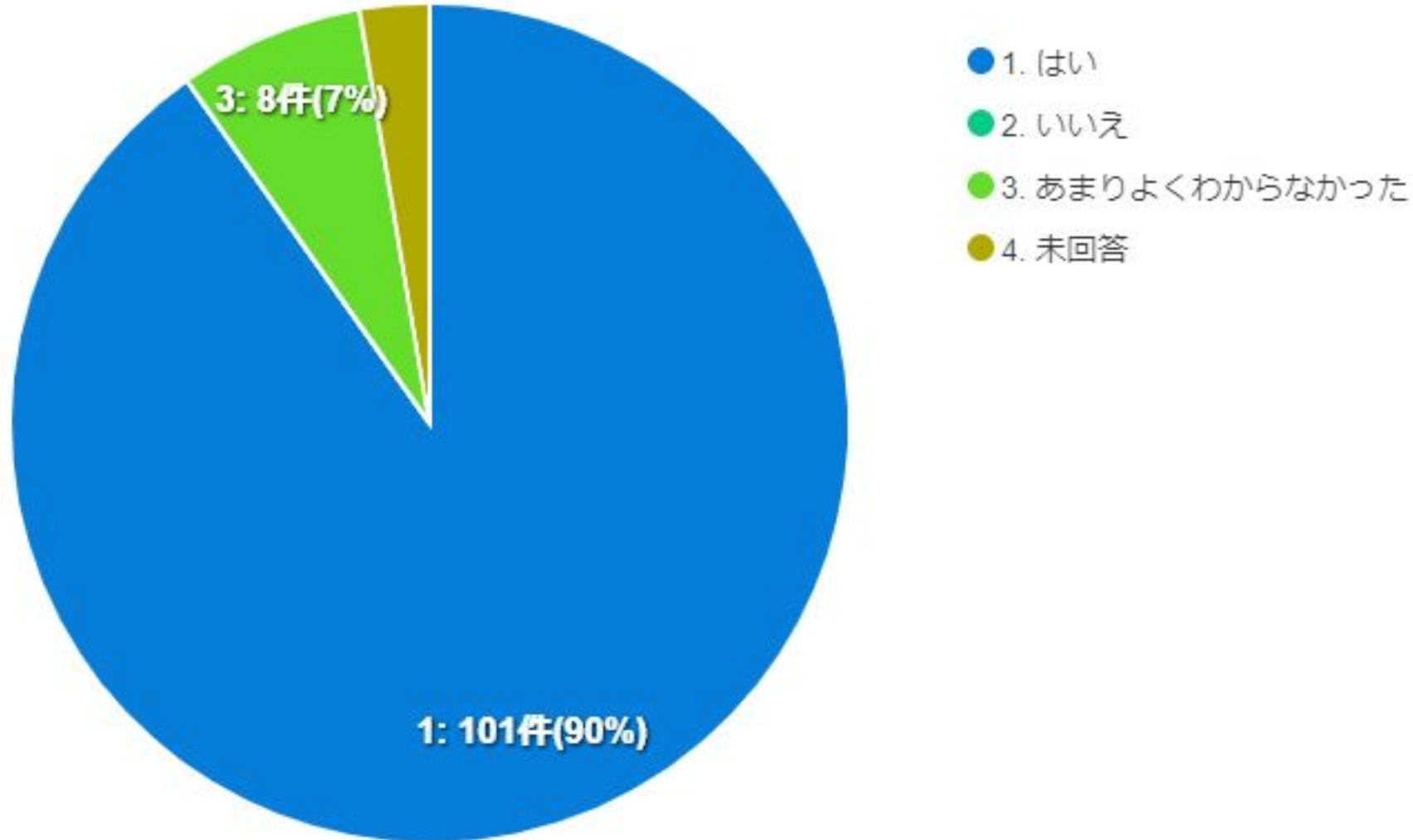
全テーマの住民意見割合

63%が投資(収入増)、36%が選択(支出減)の意見



町の人口・財政的な課題についての説明を聞いて、ご自身の仕事や生活に直結する課題として捉えることができましたか？

9割の参加者が町の課題を自分ごと化できた



農業(1月25日開催、54名参加、208意見)

農地を担い手へつなぐために多く寄せられた提案をもとに、農地マッチングや兼業農家支援、再基盤整備と農業法人による集約化、有害鳥獣対策と連動した森林ビジョンの策定、農業体験や観光農業を通じた将来の担い手育成に取り組み、持続可能な農業基盤の構築を目指す。



テーマ
「農地マッチング」
「有害鳥獣対策」
「担い手確保」について
行政・住民にできること

移住/観光/地域

5.3%

省力化

3.8%

収益向上

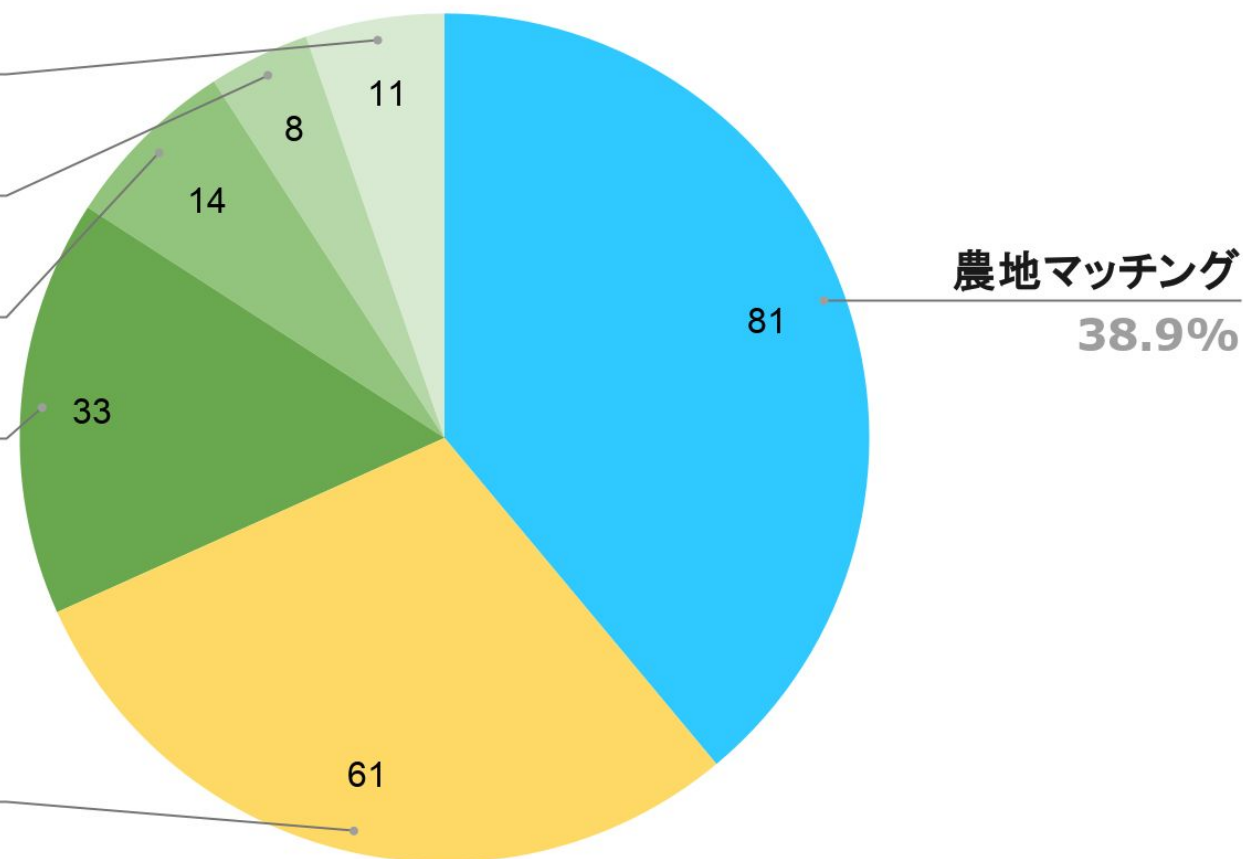
6.7%

担い手確保

15.9%

有害鳥獣対策

29.3%



富士見町の農業を未来へつなぐ：8つの重要施策

農地マッチング
(遊休農地の発生防止)
「貸したい」と「借りたい」をつなぎます。

集落支援員による支援
(地域で守る体制)
集落の農地維持体制を強化します。

兼業農家・家族経営への支援
(共同化とJA連携)
JAと連携した作業受託を推進します。

再基盤整備と集約化
(農地をまとめて効率化)
小さな農地をまとめ、法人も参加しやすい効率的な環境を整えます。

特産品・高収益化
(ブランド化の推進)
成長農産物で新たな農業への挑戦を支援します。

農業体験・観光農業
(子どもや都市住民との接点)
教育や観光と連携し、将来の担い手やファンを増やします。

有害鳥獣対策
(電気柵更新やICTの総合防除)
最新技術と地域連携で、シカやサルの被害から農作物を守ります。

森林・里山整備
(境界整備による獣害抑制)
森林ビジョンを策定、獣が人里に降りにくい環境を整備します。

健康(3月7日開催、18名参加、148意見)

健康は医療だけでなく、運動・食・つながり・心の健康によって支えられるという意見が全体の約 7割を占めた。既存施策の参加や活用不足が課題であることも明確になったため、各種事業の周知強化と「参加しやすさ」の改善を強化していく方針。

対話の会
自分らしく暮らし続けられるためにできること
～「健康」の視点で考える～

富士見町長 保健師&栄養士
あなたの未来 富士見町の未来
語り合いませんか？

3/7土
10:00～11:30
@コミュニティプラザ 2階
大会議室

町長・町の保健師&栄養士に直接想いを伝えられるチャンスです！

当イベントに関するホームページ
イベントの詳細は

予約なし！誰でも！参加できます！
手ぶらで！

あなたの医療費
うま How much?
まったくバカらん！



テーマ
自分らしく暮らし続けるために
自分・地域・行政にできること

子育て・女性支援

2.7%

行政サービス

6.1%

運動環境整備

7.4%

医療・介護

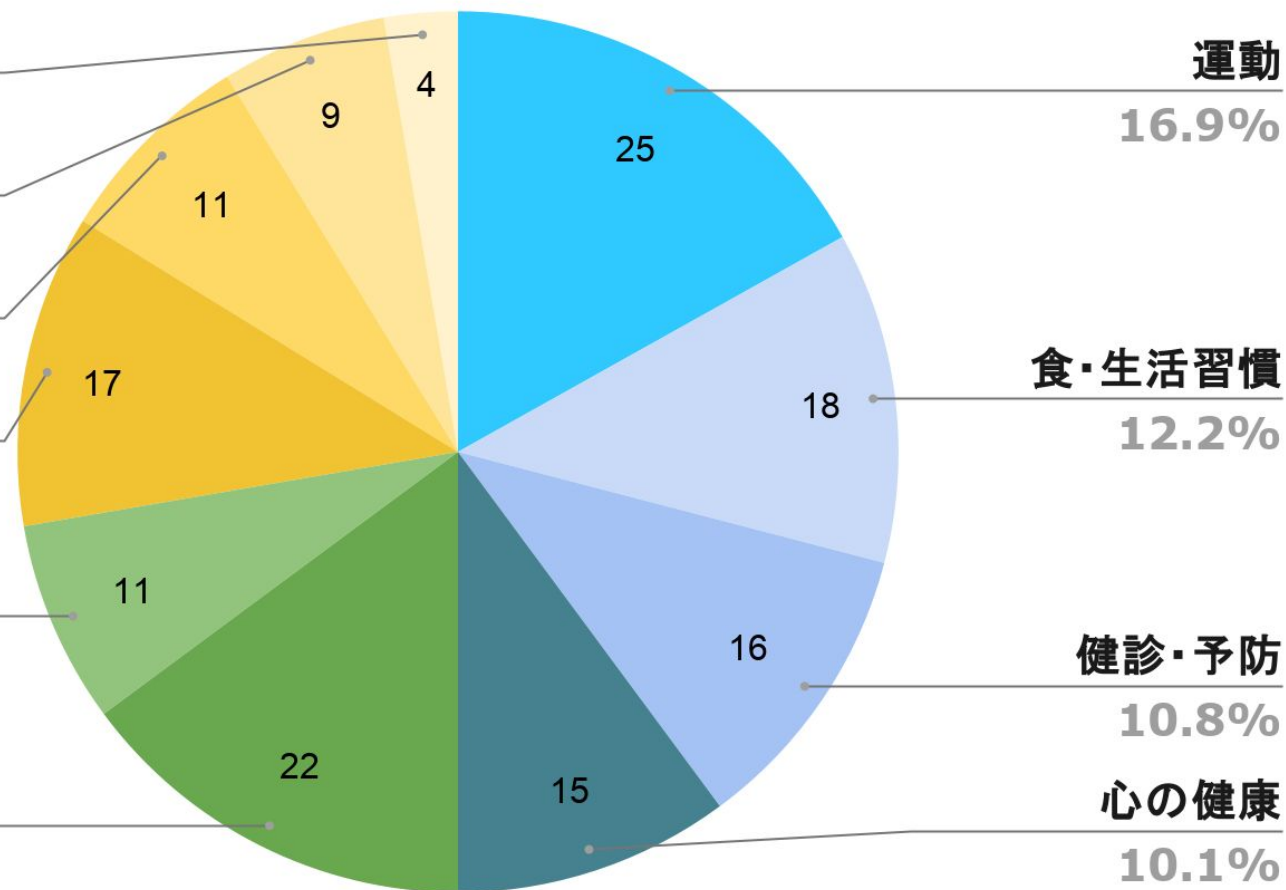
11.5%

地域の支え合い

7.4%

人とのつながり

14.9%

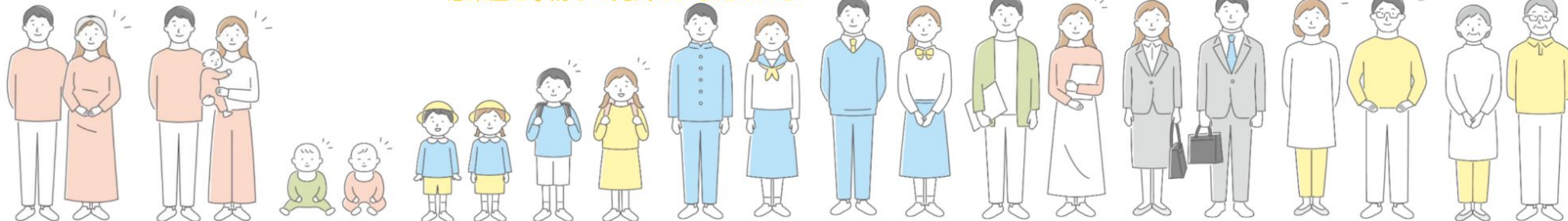


からだだけでなく、こころも健康でいたいときも

健康が当たり前で、生活するときも、歳を重ねて健康を保ち続けたいときも

子どもが産まれる時も、生まれた後も

感染症を予防して元気であるためにも



健康教室/保健指導員会活動(地区栄養講座/地区運動教室)/食生活改善推進協議会活動

こころの健康相談(家庭訪問・電話相談)/デイケア(月見草の会)/自殺予防対策の推進(ゲートキーパー養成研修など)

両親学級
(プレママクラブ/パパママ教室
/パパ・プレパパクラブ)
新生児・乳児訪問・産婦訪問
離乳食教室
ベビーマッサージ教室
妊婦一般健康診査費用助成
妊婦歯科健診
新生児聴覚検査費用助成事業
不妊・不育症治療助成事業
産婦健康診査費用助成
産後ケア事業
妊婦等包括相談支援及び
妊婦のための支援給付交付金

乳児健診
・4ヵ月児健診
・7ヵ月児健診
・10ヵ月児健診

幼児健診
・1歳6ヵ月児健診
・2歳児歯科健診
・3歳児健診

のびのびひろば
乳幼児相談
幼児食教室
親子わくわく食育体験会

五種混合予防接種
小児肺炎球菌予防接種
水痘予防接種
B型肝炎ワクチン予防接種
ロタウイルス予防接種
BCG予防接種

麻しん・風しん(混合)予防接種
日本脳炎予防接種

二種混合予防接種

子宮頸がん予防接種

健康増進プロジェクト(健康223プロジェクト)

健康診査
・特定健診 集団健診/個別健診
・長寿医療健診(個別健診)
大腸がん検診
前立腺がん検診
肝炎ウィルス検診(B型、C型)
胃がん検診
乳がん(マンモグラフィ)検診
子宮がん検診
骨密度検診
肺がんCT検診
肺がんレントゲン検診
歯周疾患検診/20歳の歯科健診
健康相談・指導(電話・訪問)
特定保健指導

胸部レントゲン間接撮影
(結核検診)

高齢者保健事業と介護予防の
一体的実施

長寿医療人間ドック費用助成

インフルエンザ予防接種
新型コロナウイルス感染症予防接種
带状疱疹予防接種
高齢者肺炎球菌予防接種

健康増進プロジェクト
(健康223プロジェクト)

地域(4月26日開催、31名参加、90意見)

区や集落は必要な存在である一方、従来の仕組みをそのまま維持するのではなく、負担を減らし、役割を見直し、誰もが参加しやすい形へと変えていく必要があるという方向性が示された。まずは他地区の先進事例を知りたいとの声に応えるため、秋に事例共有会を予定。

これから安心して暮らせる地域にするために

富士見町
地域の未来を考える
住民対話会

区・集落組合を中心とした支え合いの中で
成り立ってきた富士見町の暮らし
人口減少が進むいま、この仕組みをどう守っていくか
みなさんのご意見を聞かせてください

4.26 13:00-14:30

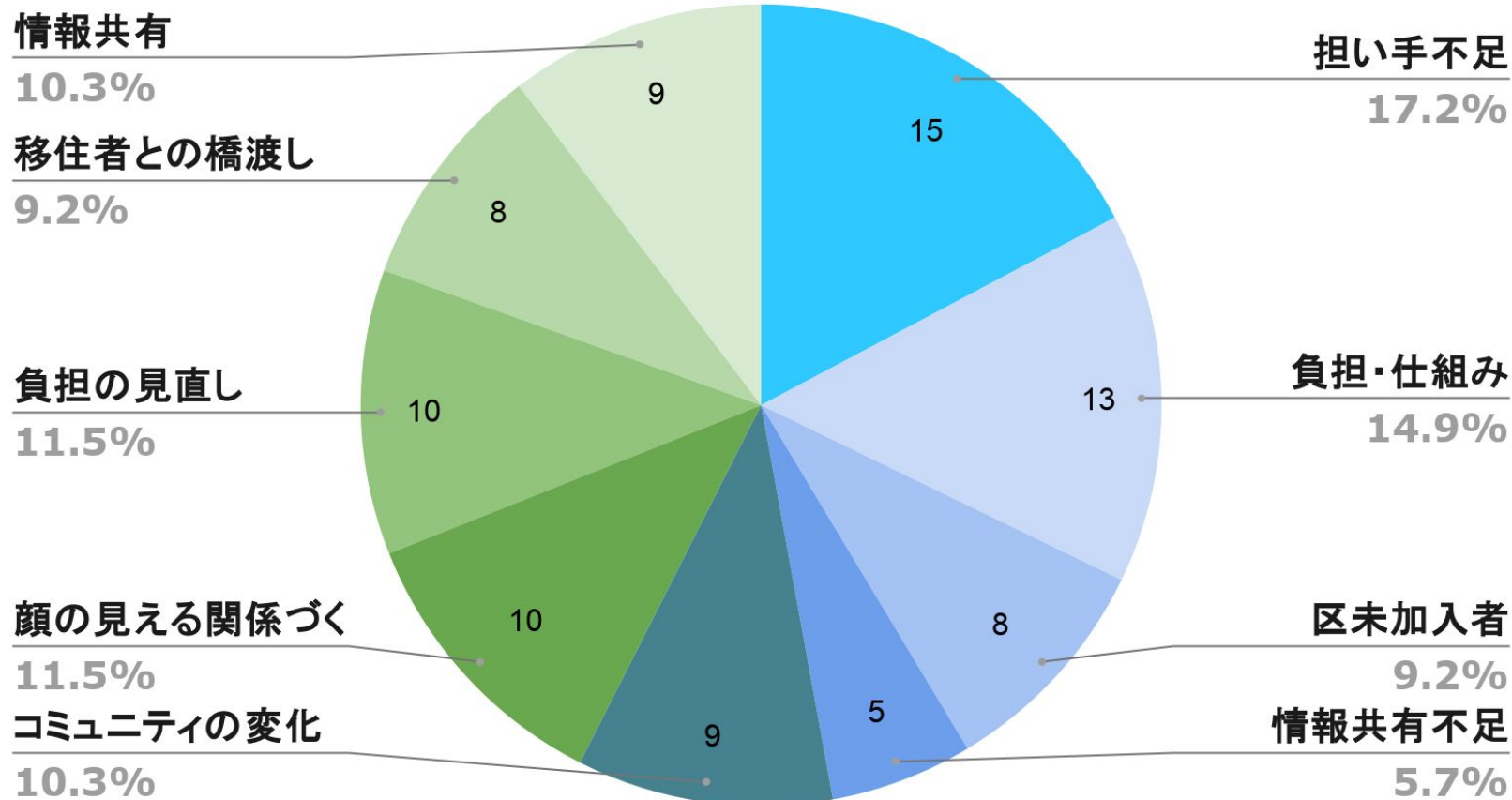
会場 富士見町コミュニティ・プラザ大会議室
(富士見町富士見3597-1)

地域の暮らしについて気軽に話し合います
日常で感じる「こうなったらいいな」を聞かせてください
小さなお子様連れも安心してご参加下さい

お問い合わせ
富士見町 総務課 まちづくり推進係
〒399-0292 長野県諏訪郡富士見町高倉10777番地
Mail: machi@town.fujimi.lg.jp
TEL: 0266-62-9331

テーマ

1. 日頃の生活で困っていること
2. 住民・区/集落組合・行政の観点での解決策



富士見町 集落支援 4つの取り組み：持続可能な地域づくりのために

人口減少・高齢化に対応し、区・集落組合の負担軽減と活性化を目指す全体像

課題を知り、ルールを整える（基盤づくり）

1. アンケートの実施



地域の暮らしや組織加入に関する本音を把握し、課題を可視化します。

2. 条例・要綱の制定の検討



集落、町民及び町等の役割を明確にし、誰もが参加しやすい組織運営を後押しします。



集落支援と
富士見町の将来

3. 集落支援員の選任



専門的な知識を持つ支援員が、地域の話し合いや情報発信に寄り添いサポートします。

4. 役場からの依頼事項見直し



現場を助け、負担を減らす（伴走と改善）

観光(5月23日開催、21名参加、248意見)

「八ヶ岳・入笠山を核とした自然景観を活かし、農業・食・歴史文化・体験を組み合わせながら、日帰り観光から滞在型観光へ転換していくこと」が求められている。その実現に向けて、観光地域づくり推進チームの活用を進めるとともに、宿泊施設整備促進補助金を新設する。



テーマ

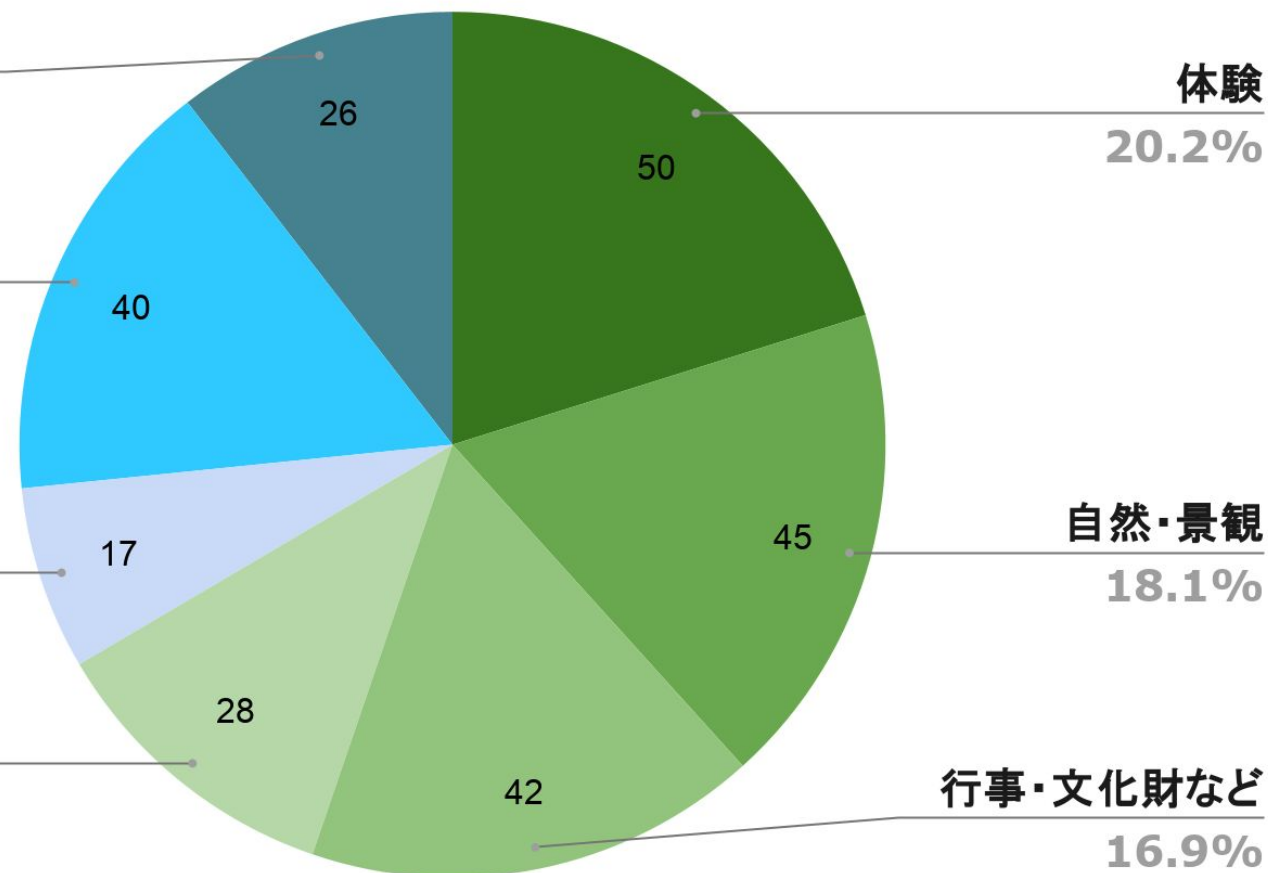
1. 観光資源の活用
2. 知られていない地域の魅力
3. 長期滞在への転換

その他
10.5%

パッケージ
16.1%

宿泊
6.9%

食・野菜
11.3%



富士見町の未来をつくる「観光地域づくり」：リゾートから町全体を楽しむ旅へ

観光のあり方を変える「着地型観光」への転換



「日帰り」から



「滞在・周遊」へ

「住んでよし、訪れてよし」の実現



観光を地域の詩りや活力に繋げ、人口減少や高齢化といった課題解決の原動力にします。

3名の「推進チーム」が始動

専門知識を持つメンバーが、地域資源の棚卸しや滞在プログラムの構築を主導します。



富士見町ならではの多彩な「体験プログラム」

Eバイクで巡る絶景ツアー

八ヶ岳の稜野に広がる自然や集落を、電動アシスト自転車で心地よく巡ります。



地域資源の
棚卸しと磨き上げ

地元の人が気づいていない「当たり前の日常」を、価値ある観光資源として再発見します。



縄文文化と暮らしの体験

世界的な価値を持つ縄文遺産や、地域の伝統的な食文化に触れる体験を提供します。

14,000 人の家族会議、はじめます。

町民の皆さまへ

日頃より町政にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

突然ですが、皆さまのご家庭では「**家族会議**」をすることはありますか？

引っ越しのこと、子どもの進学のこと、おじいちゃんの暮らしのこと——家族の将来に関わる大事なことは、みんなで話し合って決めると思います。

この町に暮らす 14,000 人は、いわばひとつの大きな家族です。でも、いまこの家族は大きな変化のなかにいます。うれしい変化もあれば、心配なこともあります。

「**これからの富士見町を、どんなまちにしていくなか**」「**どんな富士見町だったら安心して、希望をもって暮らし続けることができるのか**」を考えるために、富士見町でも「家族会議」を開きたいと思っています。

皆さまが安心して、富士見町に住み続けられるように、家族の一員としてご意見をいただければうれしいです。

総合計画アンケート(回答数 784件)

～富士見町総合計画策定のためのアンケートご協力のお願い～

『もし富士見町が「10 人家族」だったら』（富士見町の現状）

- おじいちゃん、おばあちゃんが3人、働き手が5人、子どもが2人います。
- 豊かな自然に囲まれ、都心へのアクセスもよく、移住者など新たなご近所さんも増えてきています。
- 家を出た子どもは都会からなかなか帰ってきそうにありません。
- 収入が減り、貯金も切り崩し始めており、このままだと、あと5年で貯金が底を尽きてしまいそうです。
- 一方で、家が老朽化してきて、修繕に多額のお金が必要です。
- このままでは家族のために必要なお金が足りなくなってしまうかもしれません。



富士見町の現状を詳しく
知りたい方はこちら↓

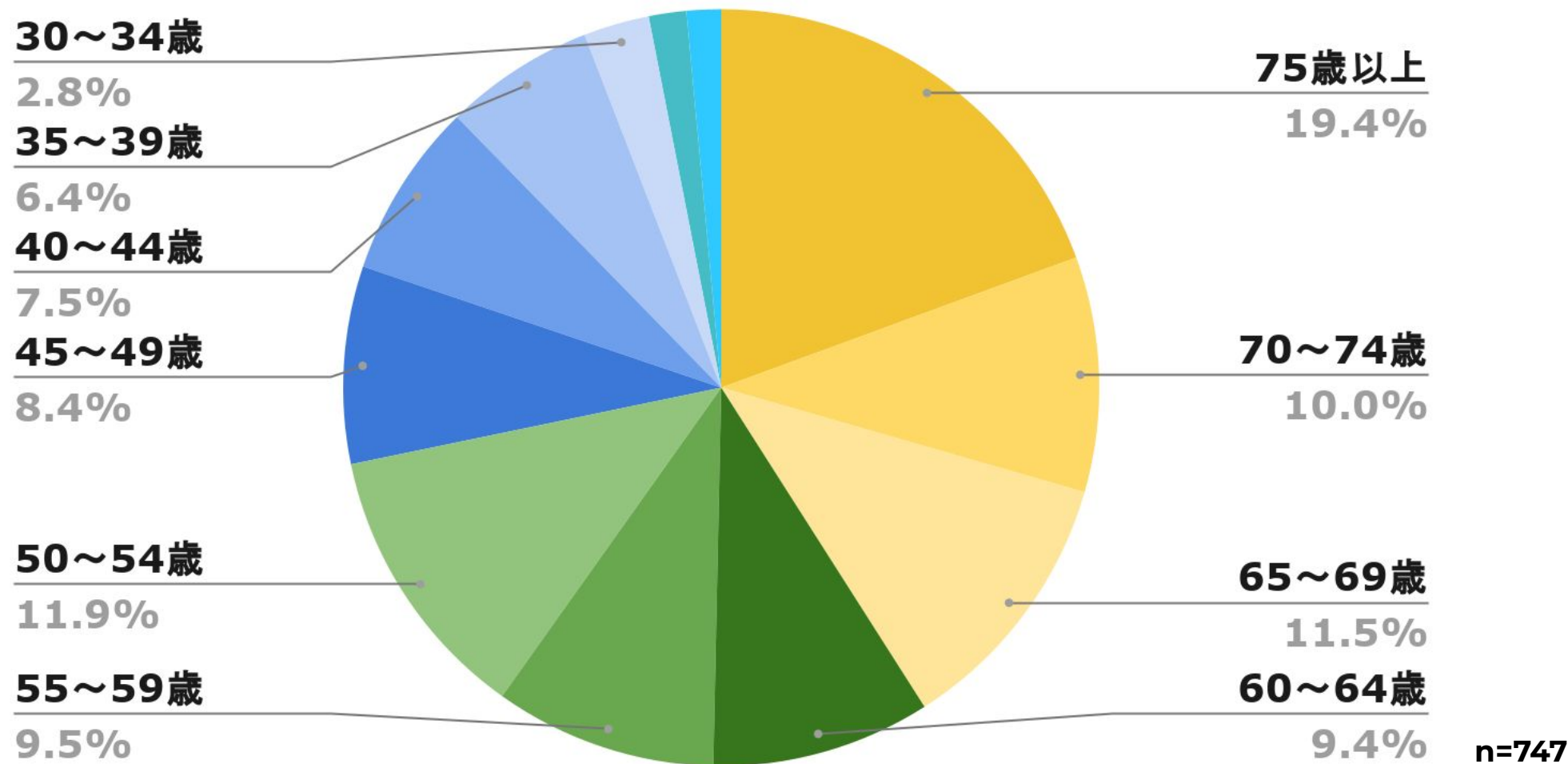


そうならないために、皆さんの想い、アイデアが必要です。
富士見町の未来を一緒に考えてください。



回答者の年代

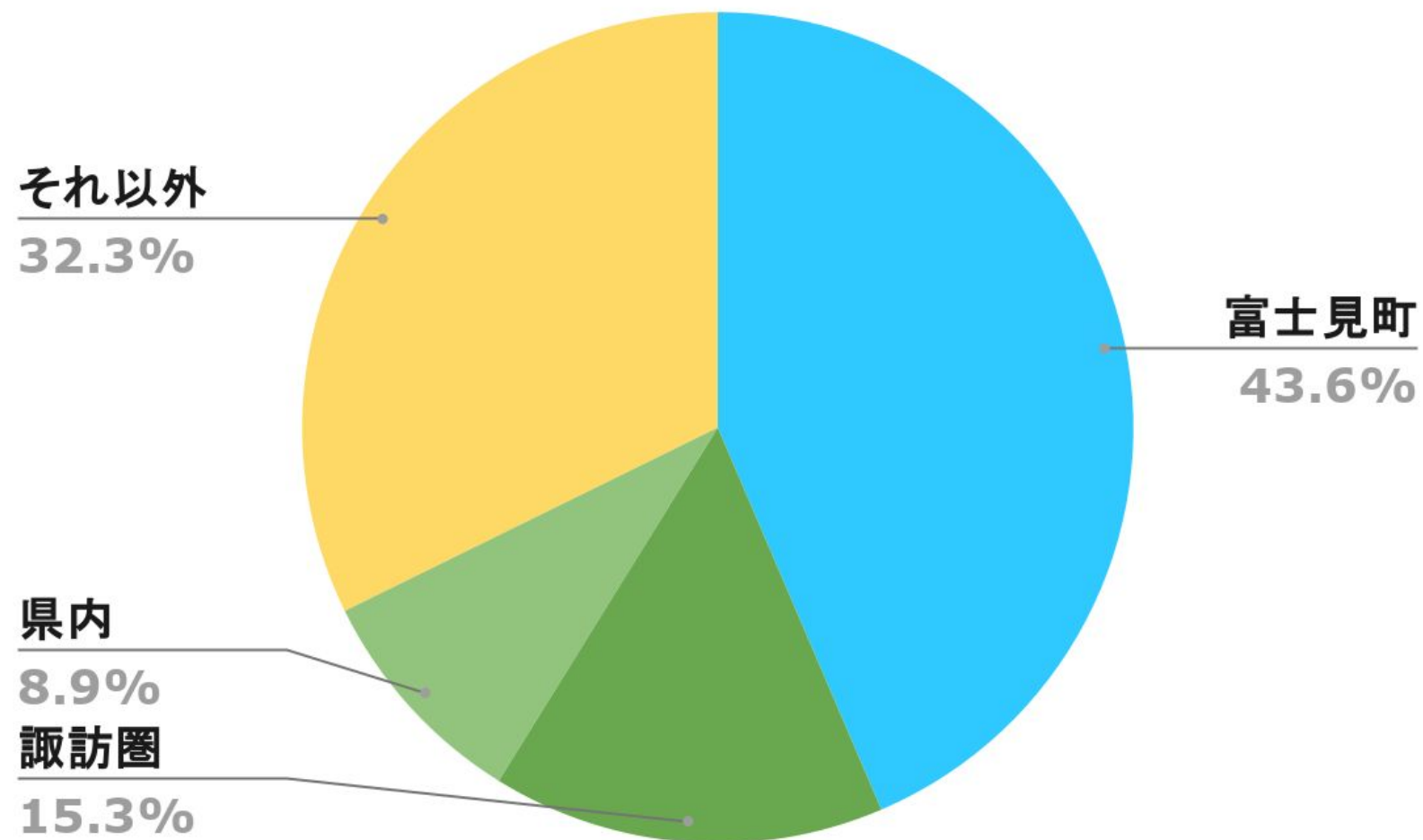
65歳以上が41.0%、50歳以上が71.8%、49歳以下が28.2%を占める。





回答者の出身地

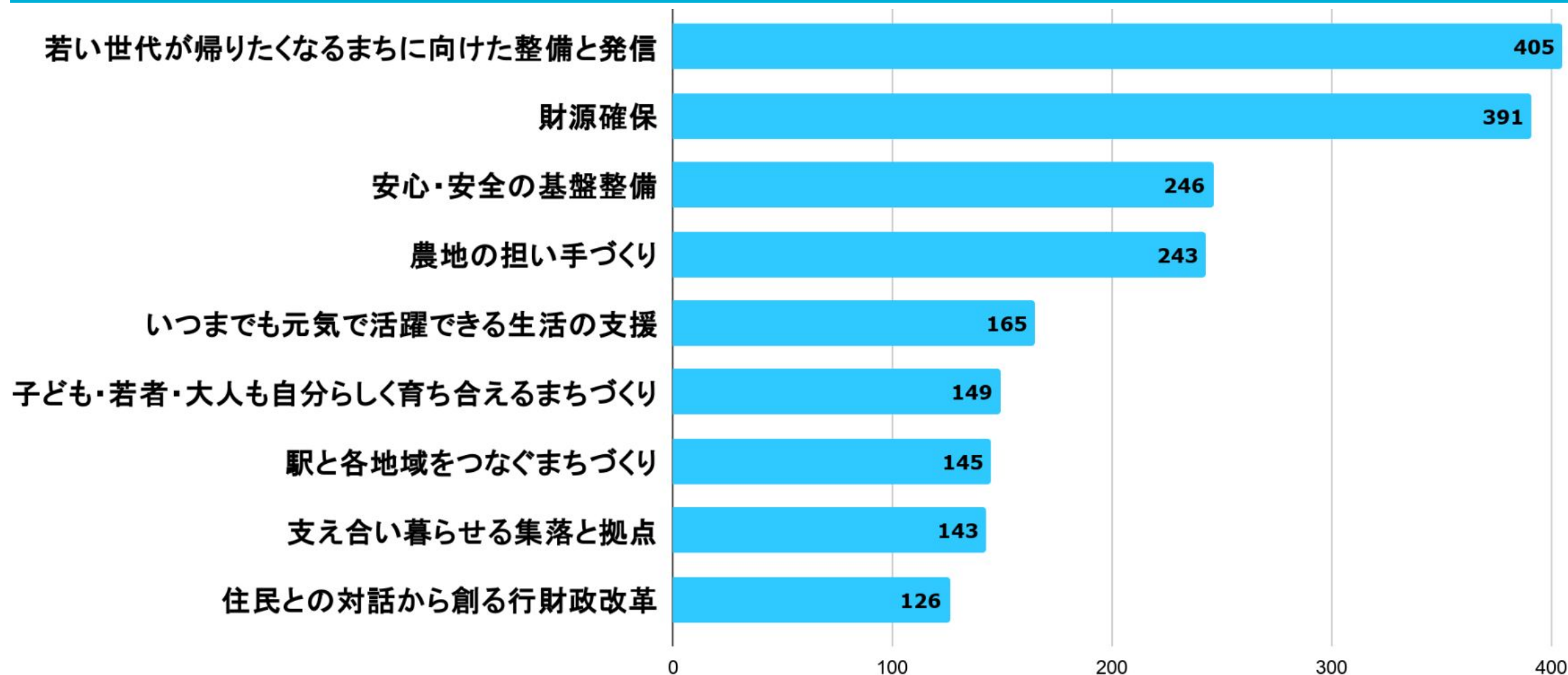
富士見町・諏訪圏出身者が 58.8%、県外出身者が 32.3%を占める。



n=753

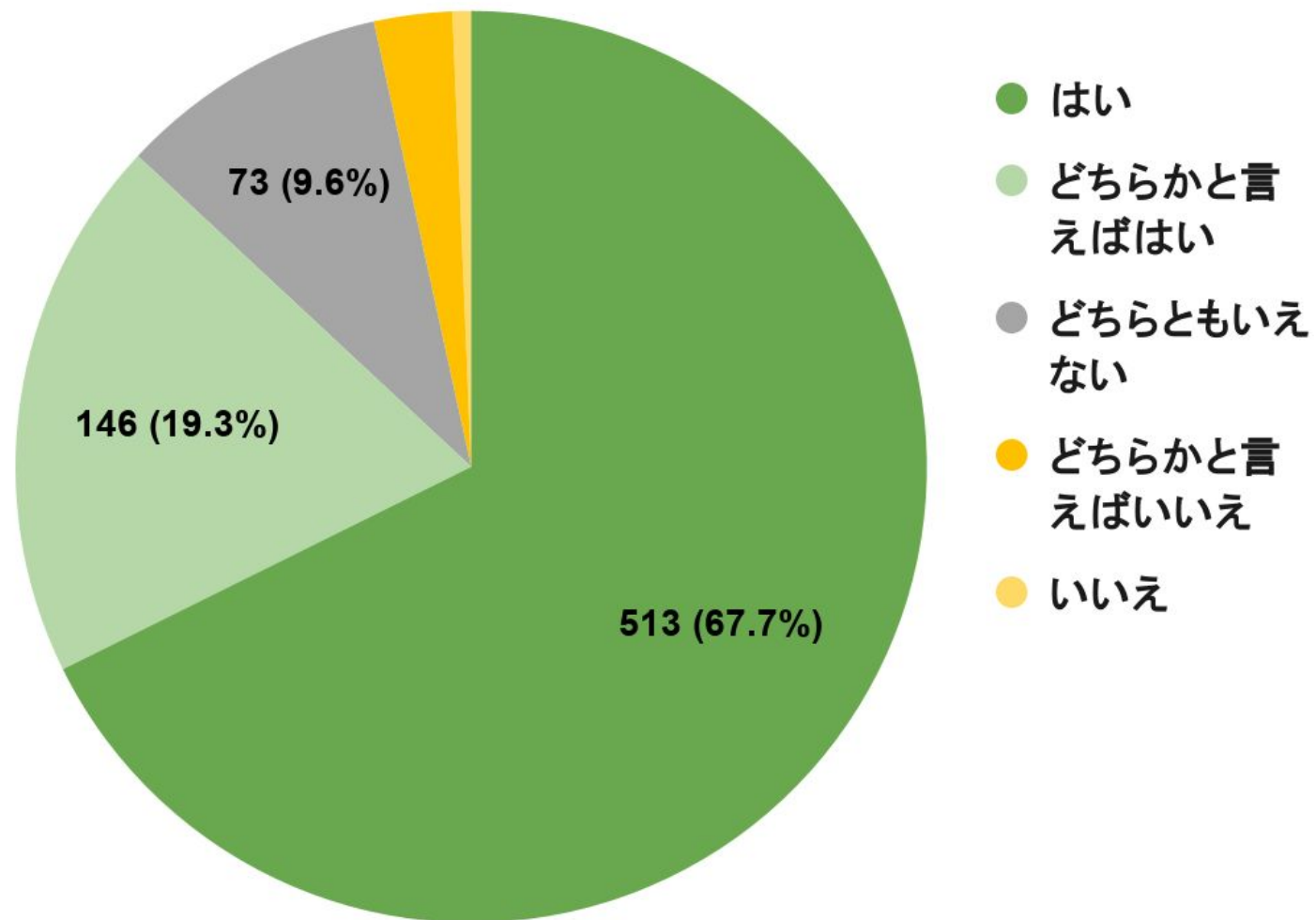
町全体として優先的に取り組むべき分野（複数選択可）

自らの世代向け施策よりも、若い世代の定着・流入と、それを支える財源確保を優先しており、将来世代を見据えたまちづくりへの期待と危機感が強く表れている。



定住意向

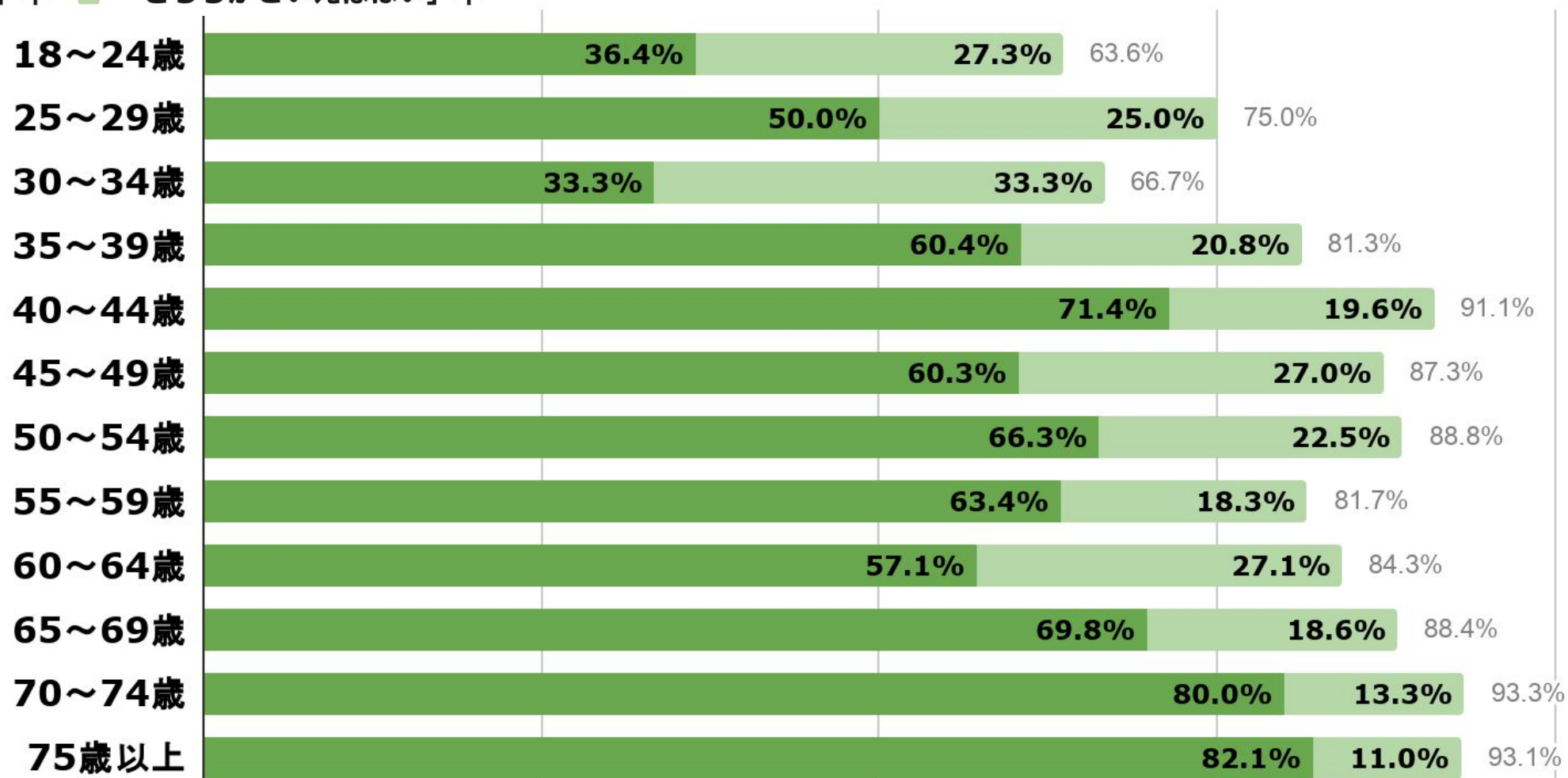
87%が富士見町に暮らし続けたい(はい・どちらかと言えばはい)と回答。



定住意向 x 年代

34歳以下の定住意向が著しく低く、進学・就職・結婚など人生の転換期に選択肢が少ないことを示している可能性が高い。若者流出対策が急務である。

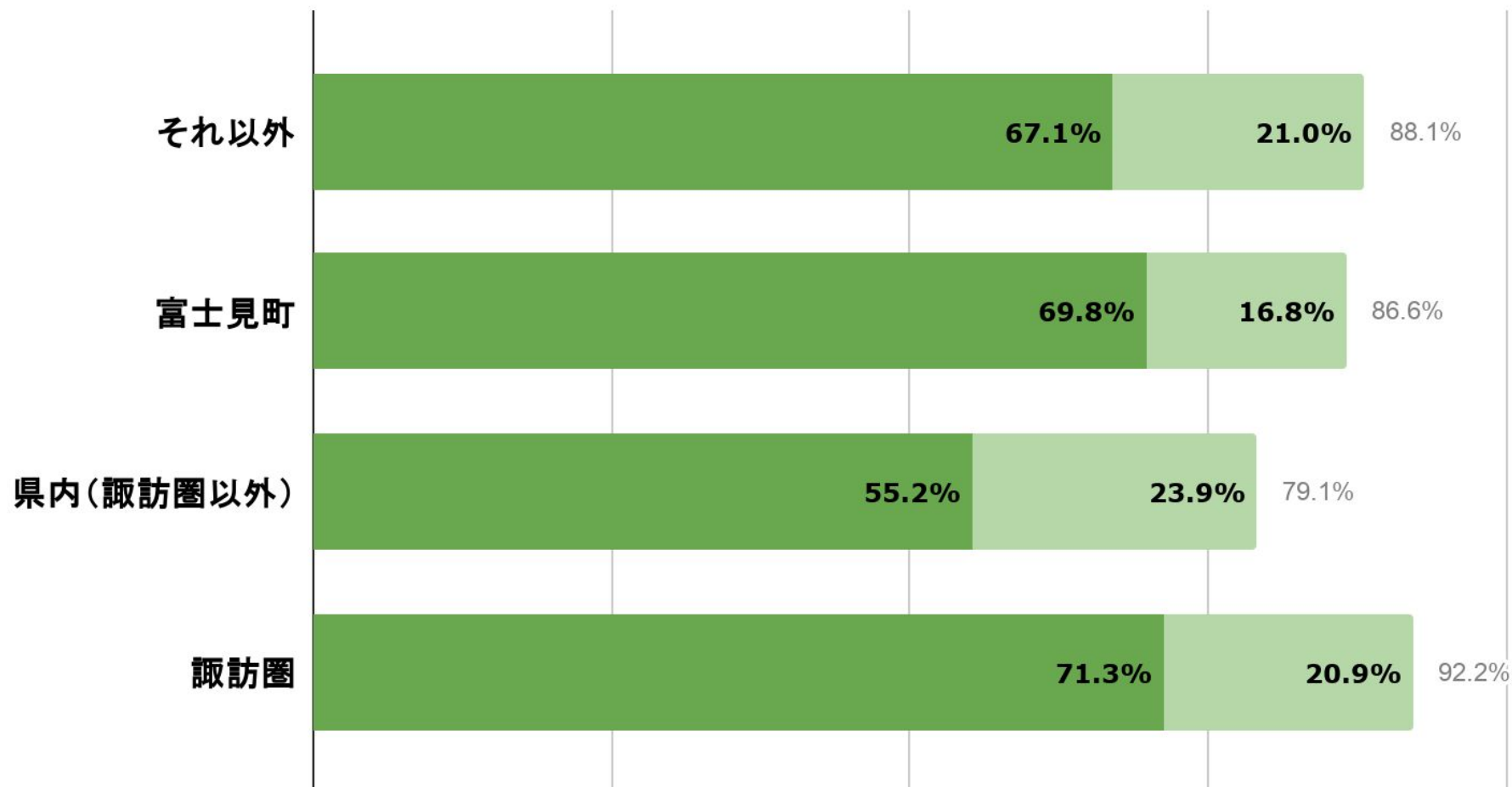
■ 「はい」 率 ■ 「どちらかといえばはい」 率



定住意向 x 出身地

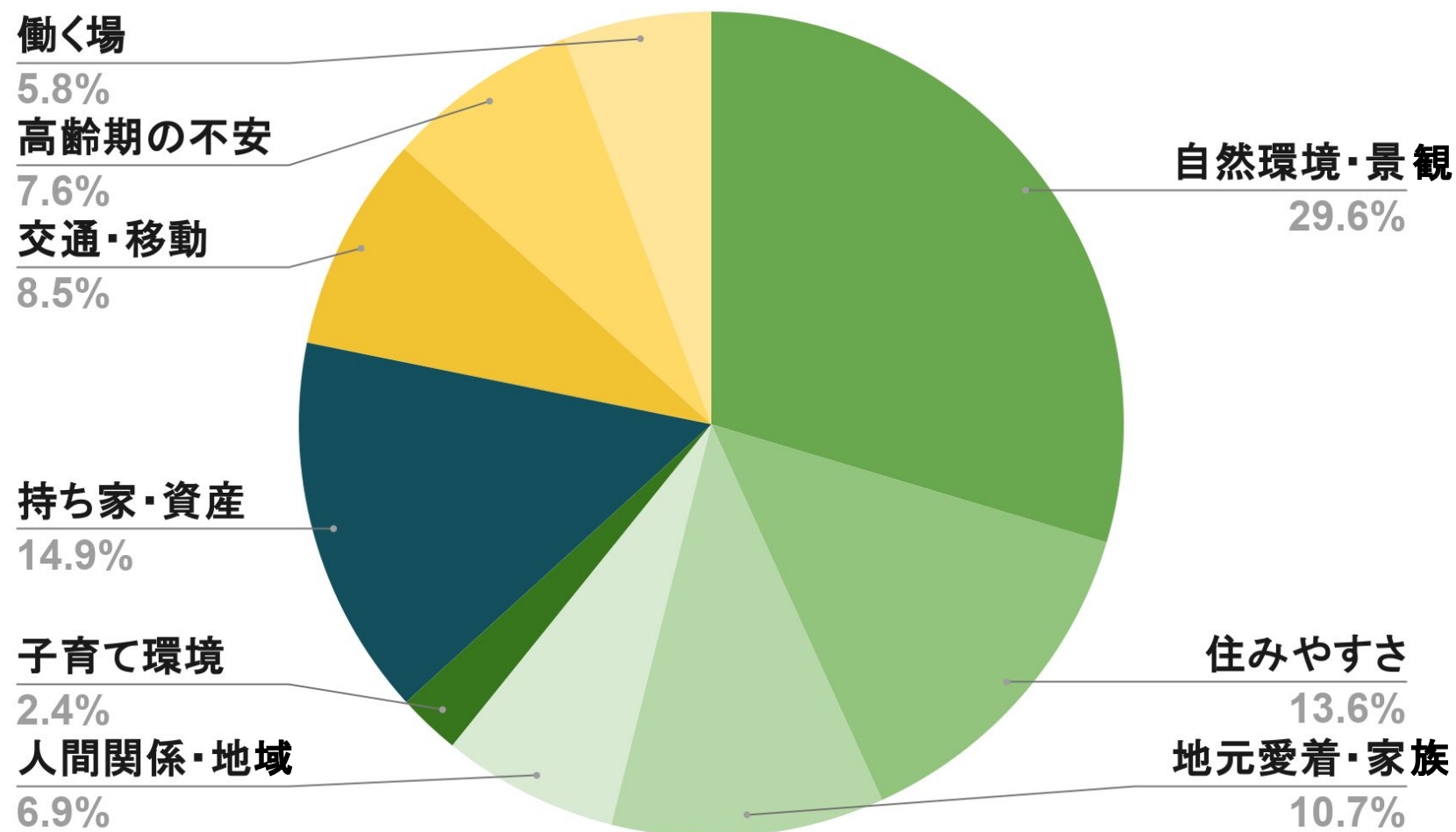
出身地による大きな差は見られず、県外出身者も含め高い定住意向が確認された。

■ 「はい」 率 ■ 「どちらかといえばはい」 率



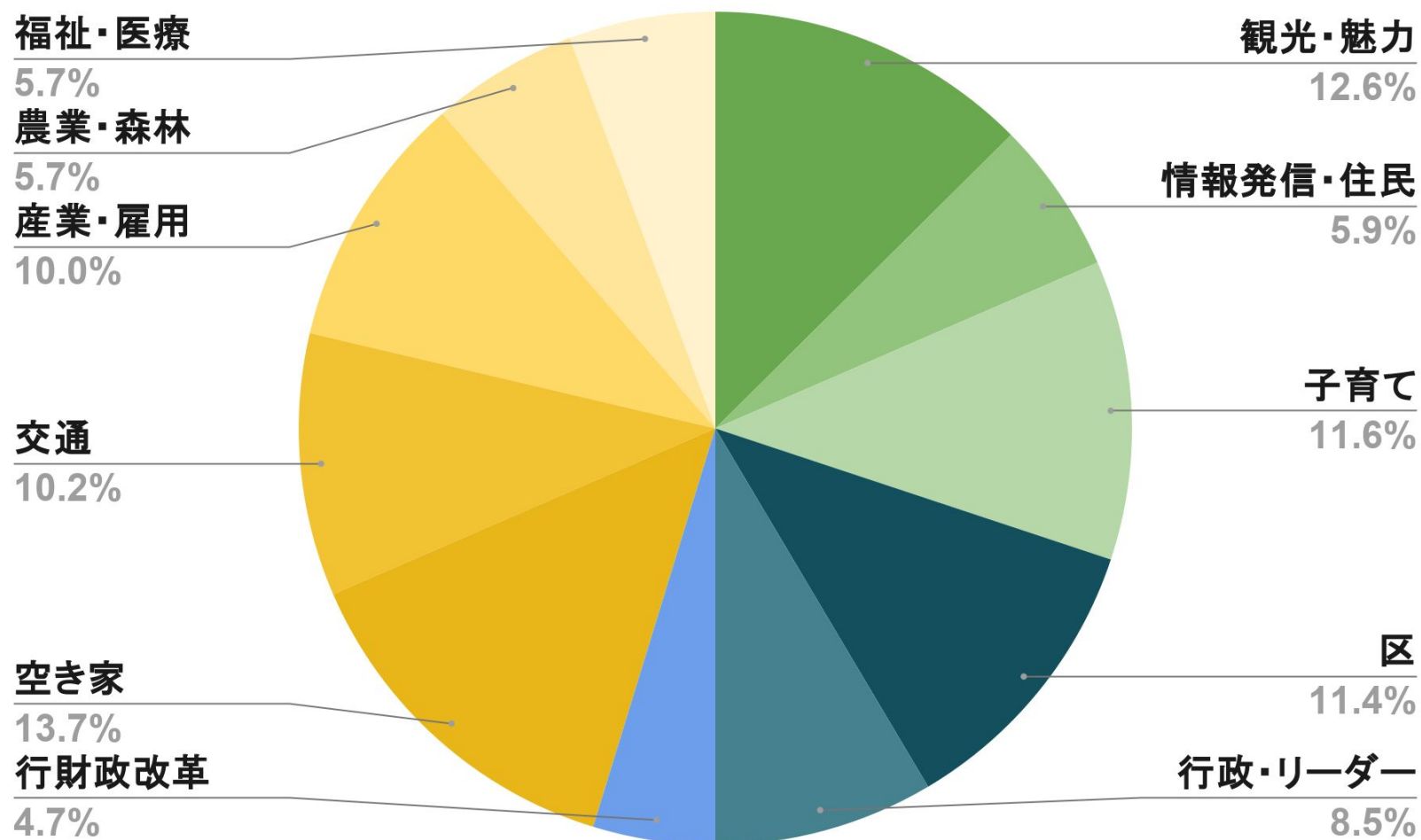
定住意向 理由

自然環境や景観の良さが最多。持ち家などを理由とする回答も多い。交通や高齢期の暮らしへの不安も一定数見られ、若い世代は仕事など人生の選択肢の確保が課題として浮かび上がった。



自由記述

個別施策への意見に加え、町の将来像、リーダーシップ、組織に関する意見も多く寄せられた。行政がどのような方向性を示し、住民とともに進めていくかについての高い関心がうかがえる。



定住意向・自由記述から見える重要事項

対話 → 決断

対話重視の姿勢は評価される一方、改革姿勢を期待し「対話」から「決断と実行」の見える化を求めている。

住民の政策提言力

自由記述の約60%が具体的な政策提案。声を活かす場を制度化することで、政策の質向上が期待できる。

区の負担

若い世代・移住者の定住の最大障壁となっている。多くの住民が参画しやすい区への転換支援が重要。

生活利便性格差

富士見駅周辺とそれ以外の地区での利便性の大きな差を感じる声が多い。各地区の生活拠点整備を検討。

組織改革

「役場の規模・人員構成・働き方」が時代に合っていないという指摘があり、DXや組織改革が求められている。

消極的定住者

「家があるから住む」を「町が好きだから住む」に変える、Fターン支援や地元愛着醸成教育の強化が重要。

子育て世代の負担

隣接自治体との比較で見劣りすると感じる声があり、未満児保育料改善やスクールバス拡充の検討が重要。

高齢期の生活不安

交通・買い物・医療に不安を感じている高齢者が多い。デマンド交通改善や高齢者生活支援拡充が求められる。



『現状維持』ではなく
『持続可能な変化』を求めている住民が多い。

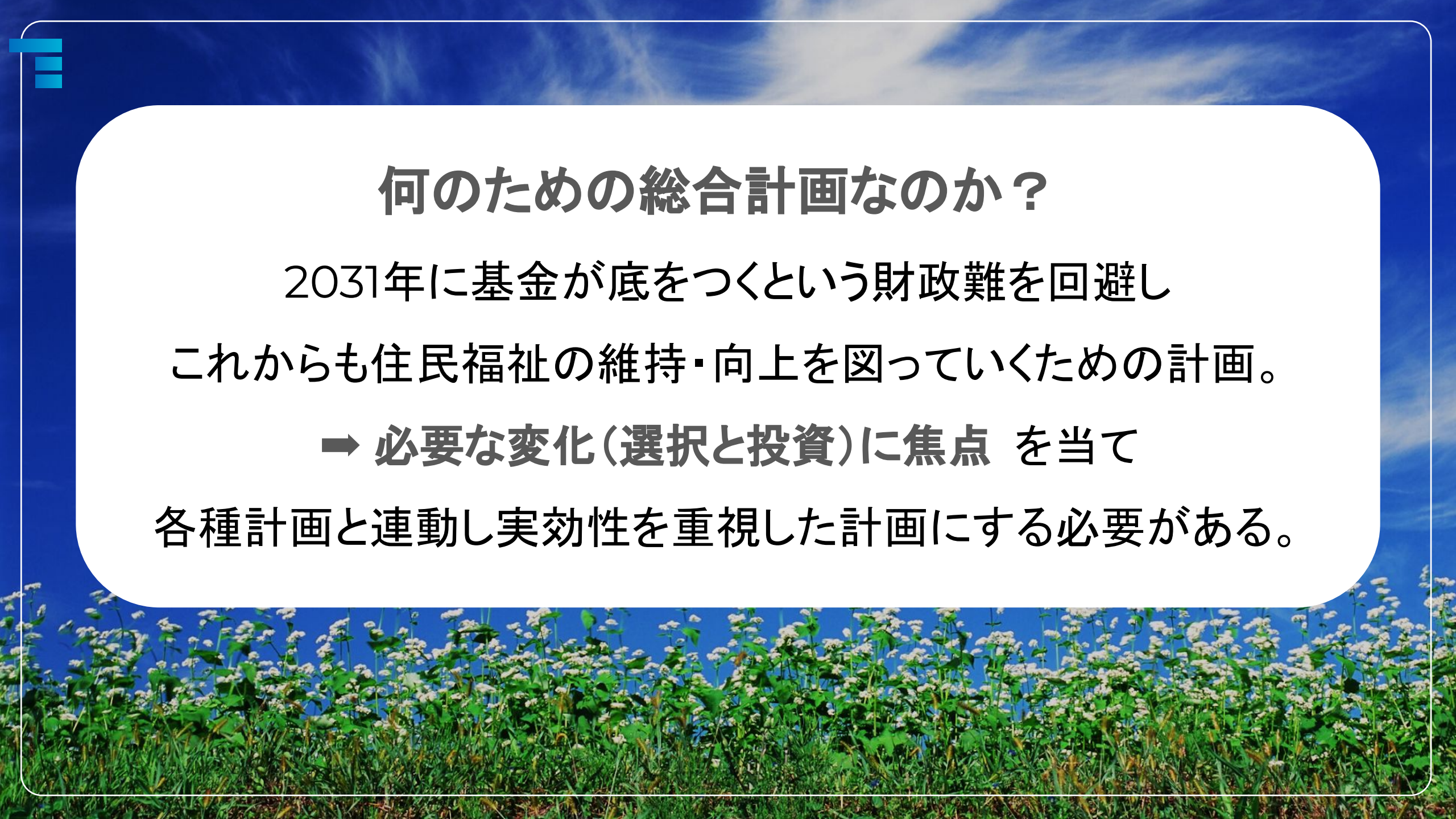
住民の暮らしを支え続けるまちづくりを
今後も継続していくために
必要な変化＝「選択と投資」を実行することが重要である。

01 前期計画 KPI進捗確認

02 対話の会・アンケート

03 後期計画の方向性(案)

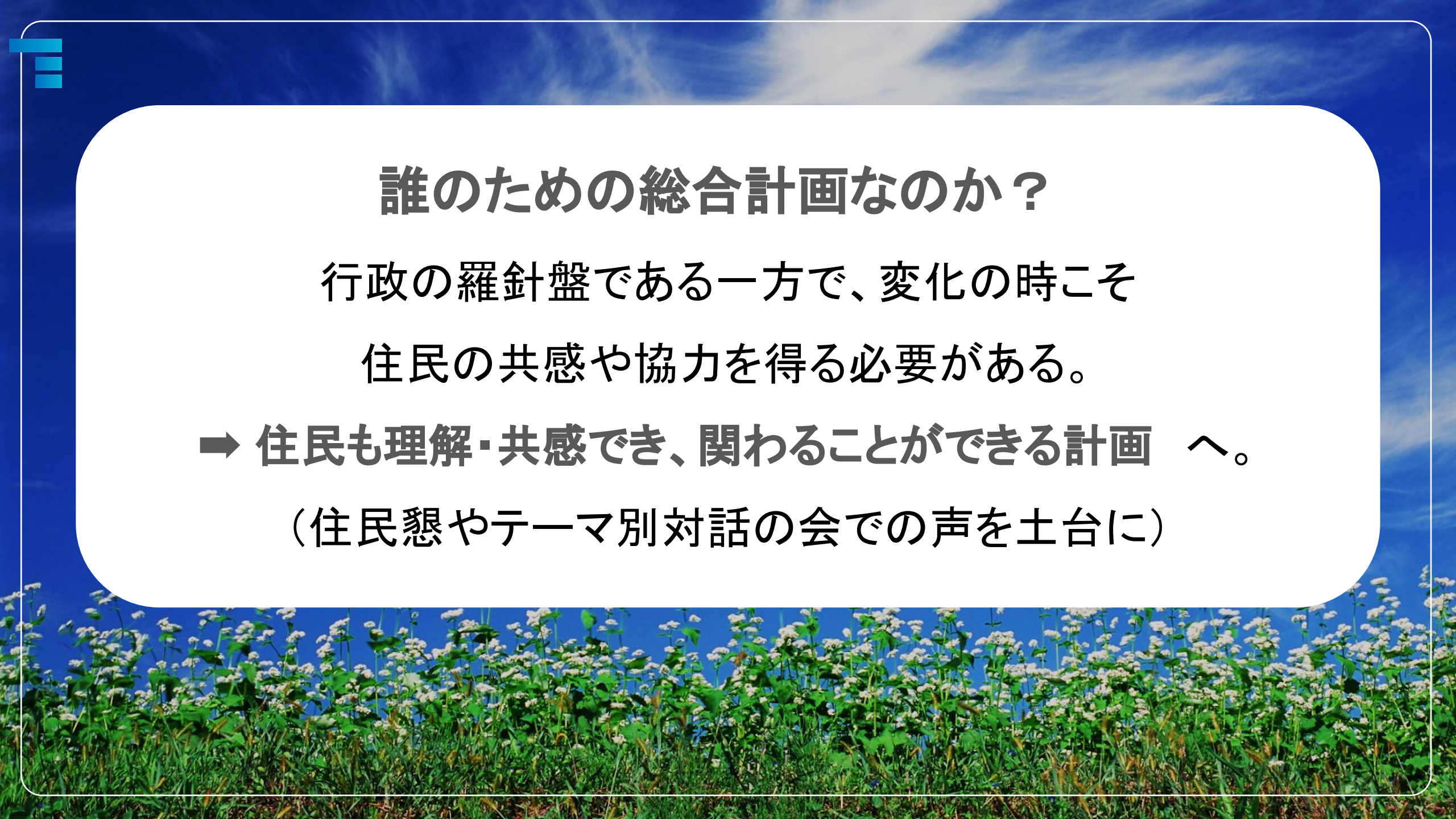


A background image showing a clear blue sky with wispy white clouds at the top, and a field of green plants with small white flowers in the foreground.

何のための総合計画なのか？

2031年に基金が底をつくという財政難を回避し
これからも住民福祉の維持・向上を図っていくための計画。

➡ **必要な変化(選択と投資)に焦点** を当て
各種計画と連動し実効性を重視した計画にする必要がある。



誰のための総合計画なのか？

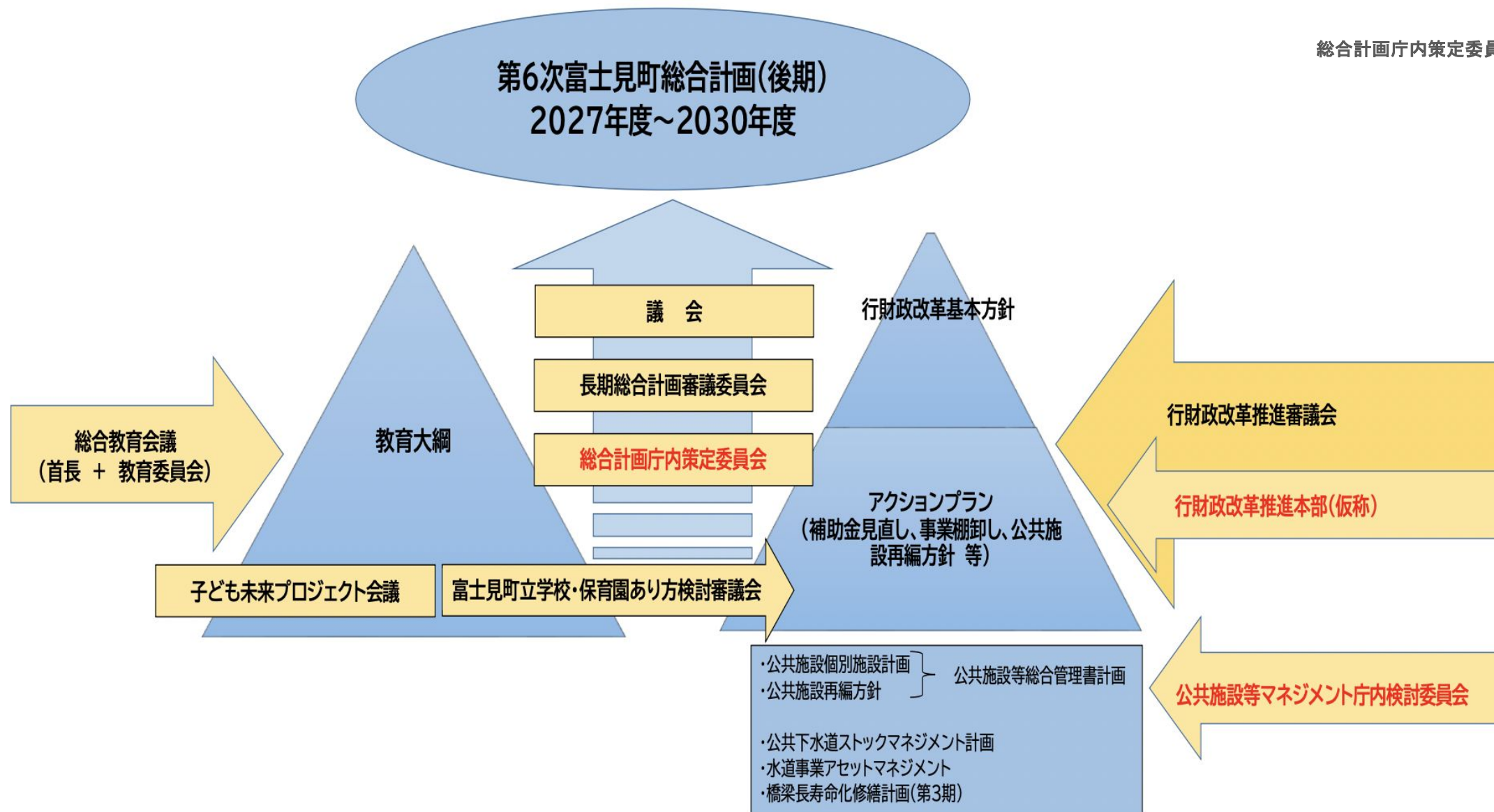
行政の羅針盤である一方で、変化の時こそ
住民の共感や協力を得る必要がある。

➡ 住民も理解・共感でき、関わることができる計画 へ。

（住民懇やテーマ別対話の会での声を土台に）

体系図

総合計画庁内策定委員会資料
体系図

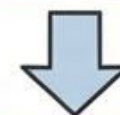


総合計画

- ・目的：4年間の町の方向性と政策優先順位を定める
- ・内容：将来像・KPI・重点政策
- ・提供資料：前期計画達成度確認表、住民懇談会等の意見集計表、住民アンケート



個別計画(実行を支える)



行財政改革基本方針・アクションプラン

- ・目的：財政危機を回避し、持続可能な行財政体制の整備
- ・内容：健全な行財政運営の確立／行政サービス見直し／組織・人材マネジメント改革／DX・業務効率化の推進／公共施設マネジメントの推進
- ・提供資料：事業評価シート、公共施設再編方針確認表



公共施設等マネジメント計画

- ・目的：公共施設・インフラを適切に維持・整理していく
- ・内容：公共施設・公有財産の活用・統廃合・長寿命化・複合化・民営化・除却・売却
橋・道・上下水道の維持管理・更新・廃止
- ・提供資料：公共施設再編方針確認表、橋梁長寿命化修繕計画、上下水道マネジメント計画





目指す町の姿



Mission（使命）

住民の福祉の増進

Vision（将来像）

共に創り、次世代に繋ぐ【選択と投資】

ブランディング

空の恵みが届くまち

総合計画全体の KPI



行財政改革目標

- 経常収支比率 85%
- 実質公債費比率 14%
- 20億円以上



人口構造別目標

- 生産年齢人口割合
- 年少人口割合
- 社会増減数



暮らし充実目標

- 年代別の定住意向率



① 選択



住民との対話から創る
行財政改革の実行



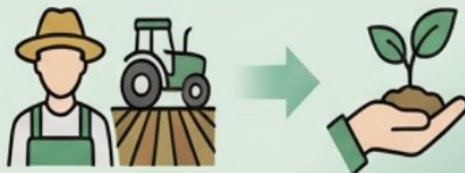
② 投資



投資を支える
財源確保

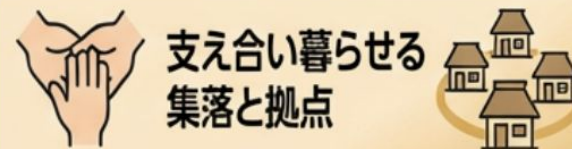


若い世代が帰りたくなるまちに向けた
整備・発信(教育・仕事・住まい)

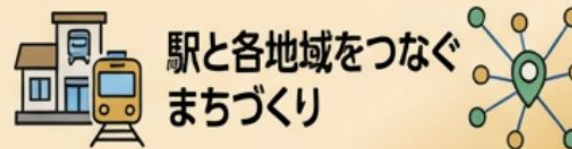


農地を担い手につなぐ

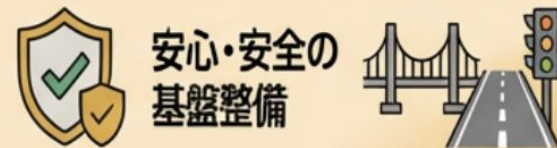
③ 住民の暮らしを支え続けるまちづくり



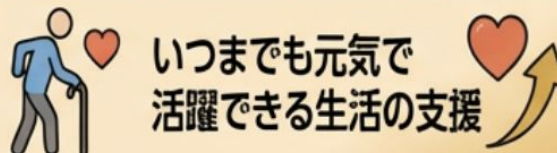
支え合い暮らせる
集落と拠点



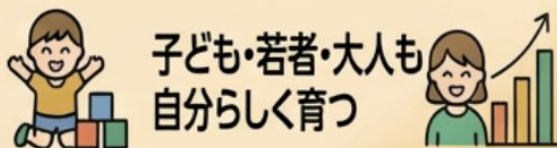
駅と各地域をつなぐ
まちづくり



安心・安全の
基盤整備



いつまでも元気で
活躍できる生活の支援



子ども・若者・大人も
自分らしく育つ

重点施策例:

① 選択

全体KPI	1. 経常収支比率 2. 財政調整基金繰入額 3. 行政信頼度	
テーマ	施策	KPI
住民との対話から創る行財政改革の実行	住民対話・共創（テーマごとの対話の会、各審議会での意見/年齢/性別の多様性担保、行財政改革に関するわかりやすい情報発信、住民・事業者との協働事業推進（参加型まちづくり）	対話の会開催数/年、重複委員数、女性・50代以下の割合、必要な情報が届いている、自分ごと化できていると回答した率、協働事業数
	事業の棚卸（事業効果の検証、新規公共事業の選択・見直し、審議会による事業評価と公表、補助金見直し）	行財政改革アクションプラン達成率
	公共施設マネジメント（公共施設・公有財産の棚卸、戦略的活用・統廃合・長寿命化・複合化、民営化・除却・売却、公共施設再編方針の更新・公表、パノラマリゾート収益向上による大型設備投資の自主財源確保）	公共施設再編方針更新版の計画達成率
	DX（オンライン手続き増加、事務事業へのAI活用、フロントヤード改革による業務フロー可視化と見直し、ペーパーレス推進）	DX推進計画達成率
	人材・組織改革（窓口時間短縮・マニュアル化・BPRなどの業務改革、適正な人員配置、リモートワーク、時差出勤等、兼業・副業制度導入、リスクリング、人材育成による、生産性の向上と職員の多様な働き方の推進）	残業時間数、職員人数、副業・リモート・フレックス利用率、男性育休取得率

A. 住民への説明が必要(5年以内)

施設名称	担当課	総延床 面積	取得年度	対策	区分
旧落合小学校	総務課	0	1977	解体	修繕
信濃境公営住宅	総務課	820	1965	解体	修繕
一ツ藪公営住宅	総務課	234	1981	解体	修繕
富士見ヶ丘教員住宅	総務課	322	1985	解体	修繕
一ツ藪町営住宅1・5～8号	総務課	288	1986	解体	修繕
信濃境教員住宅	総務課	191	1972	解体	修繕
信濃境町営住宅	総務課	185	1972	解体	修繕
信濃境町営住宅	総務課	93	1988	解体	修繕
一ツ藪町営住宅2・3号	総務課	86	1986	解体	修繕
福祉センター	住民福祉課	1,929	1993	現状維持	修繕
多目的研修センター	子ども課	269	1991	現状維持	修繕
本郷小学校児童クラブ	子ども課	72	2011	現状維持	修繕
西山保育園	子ども課	1,086	2001	現状維持	修繕
富士見小学校	子ども課	6,547	1974	現状維持	修繕
本郷小学校	子ども課	4,939	1979	現状維持	修繕
境小学校	子ども課	4,192	1983	修繕	修繕
富士見保育園	子ども課	1,277	1991	現状維持	修繕
本郷保育園	子ども課	887	2005	現状維持	修繕
落合保育園	子ども課	363	1962	現状維持	修繕
境保育園	子ども課	516	1971	現状維持	修繕
井戸尻考古館	生涯学習課	1,984	1974	建替え	修繕
おこと亭	産業課	775	1991	譲渡	修繕

関連計画

富士見町子ども子育て支援事業計画

2020～2024年度

関係者に期待すること

住民

子育て家庭を孤立させることなく、地域で子どもを見守り、育てる

関係する公共施設

公共施設名

方針:

必要なアクション:

- ・住民との話し合いをはじめる
- ・審議会で方向性を決定する

すべての人が地域で支え合い
健やかに暮らせるまち



政策2-1 地域保健の推進と医療との連携促進

政策2-2 介護予防と高齢者福祉の推進

政策2-3 障がい者福祉の推進

政策2-4 地域福祉の推進と包括的支援の充実

政策の目的(政策によってめざすまちの姿)

すべての世代の市民が自分の健康に関心を持ち、
ライフステージに応じた健康づくりに
主体的に取り組むことで、
生涯にわたって健康な生活を送っているまち

施策とその方向性

1 人とまちの健康づくりの推進

「自分たちの健康は自分たちでつくり・守る」という考えのもと、自分の健康に関心を持ち、健康的な生活習慣を身につけ、主体的に健康づくりに取り組むとともに、個人や家族だけでなく、地域や職場等にも健康づくりの輪を広げ、市全体の健康水準の向上に寄与することができるよう、情報発信や普及啓発の強化、健康について自ら学び実践する人材の育成などを通じ、市民一人ひとりにあった健康づくりを促進します。

市民が、学童期、青年期、壮年期、老年期等各ライフステージに応じた身体活動や運動、食育などを通じて健康づくりに取り組むことができるよう、地域や学校、企業、市民活動団体などと連携し、主体的な取組を活発化させ、健康を支える環境づくりを推進します。

2 保健の充実と医療連携

市民が健康的に暮らし続けられるよう、特定健診やがん検診の受診、かかりつけ医受診などの促進や保健指導の強化により、生活習慣病やがんなどの発症予防や早期発見・早期治療、重症化予防につなげます。

市民が必要ときに適切な医療を受けられるよう、かかりつけ医と地域の中核的な医療機関との連携の促進や、在宅医療や在宅介護の推進のためのネットワークづくり、休日診療体制の確保など、地域医療体制を充実させます。

市民生活に重大な影響を及ぼす感染症の発症予防とまん延防止を図るため、感染症に関する知識や情報等の周知啓発と迅速かつ適切な対応ができる体制を確保します。

政策2-1-1
地域保健の
推進との
医療との
連携促進



ひとづつ こが育つ

政策の目的(政策によってめざすまちの姿)

心のふれあいや地域の支え合いにより、
高齢者が住み慣れた地域で人生の最期まで
自分らしい生活を送ることができるまち

施策とその方向性

1 みんなで支え合う介護予防の推進

高齢者が健康に生きがいを持って暮らしていけるよう、地域での介護予防の担い手を育成し、身近な地域のつどいの場における運動や音楽等を通じた住民の交流や自主的な介護予防活動を推進します。

また、生活習慣病をはじめとする疾病の発症や重症化の予防及び心身機能の低下を防止するための支援を一体的に推進します。

2 最期まで尊厳のある暮らしを続けるための支援の充実

高齢者やその家族が抱える複雑化・多様化した問題の解決に向け、包括的な相談体制を充実します。また、高齢者の権利を擁護するため、成年後見制度の普及、虐待防止に取り組めます。

認知症高齢者やその家族が地域で安心して生活することができるよう、認知症に関する理解を促進するための啓発や人材育成、早期発見・早期対応のための体制強化などに取り組めます。

高齢者の困りごとの解消につながるよう、地域、ボランティア、企業、団体等のさまざまな主体が連携した支え合いによる地域生活の支援を促進します。

介護人材の育成やICTの活用、医療・介護・福祉の関係機関との連携強化などにより安定的に在宅医療・介護サービスを提供するための体制を確保し、医療や介護が必要となっても、住み慣れた地域で本人が望む自分らしい暮らしを最期まで続けることができるよう支援します。

政策2-1-2
介護予防と
高齢者福祉
の推進



ひとづつ こが育つ

すべての人が地域で支え合い 健やかに暮らせるまち

施策	基本事業	事務事業
1 人とまちの健康づくりの推進	1 健康づくり推進事業	健康づくり推進事業
	2 食育推進事業	食生活改善推進事業 食育推進事業
2 保健の充実と医療連携	1 地域医療連携推進事業	地域医療推進事業 健康助け合い活動促進事業
	2 疾病予防・早期発見事業	疾病予防・早期発見事業
	3 感染症対策事業	感染症対策事業
	4 国民健康保険管理事務	国民健康保険管理事務 国民健康保険税賦課徴収事務
	5 国民健康保険給付事業	国民健康保険給付事業
	6 後期高齢者医療管理事務	後期高齢者医療管理事務 後期高齢者医療保険料賦課徴収事務
	7 後期高齢者医療療養給付事業	後期高齢者医療療養給付事業
1 みんなで支え合う介護予防の推進	1 保健事業と介護予防の一体的実施事業	保健・介護予防活動促進事業 高齢者生きがいづくり支援事業
	2 介護予防・生きがいづくり支援事業	介護予防把握事業 介護予防活動推進事業
	3 介護予防関連施設管理事業	介護予防関連施設管理事業
2 最期まで尊厳のある暮らしを続けるための支援の充実	1 地域包括ケア推進事業	地域包括ケア推進事業
	2 高齢者権利擁護推進事業	高齢者権利擁護推進事業
	3 認知症総合支援事業	認知症見守り促進事業 認知症高齢者等支援事業
	4 介護保険管理事務	介護保険管理事務 介護保険料賦課徴収事務
	5 介護サービス提供事業	介護サービス給付事業 介護サービス事業者支援事業
	6 高齢者日常生活等支援事業	高齢者日常生活等支援事業 生活再生支援事業
1 地域で安心して生活するための支援の充実	1 障がい者生活支援事業	障がい福祉サービス等提供事業 自立支援医療事業 特別障がい者手当等給付事業 障がい福祉サービス事業所支援事業
	2 障がい者相談支援事業	障がい者相談支援事業
	3 障がい者権利擁護推進事業	障がいの理解促進事業 障がい者成年後見制度利用支援事業 障がい者虐待防止事業
	4 重度障がい者医療事業	重度障がい者医療事業
	5 障がい者福祉関連施設管理事業	障がい者福祉関連施設管理事業
2 自分らしさを発揮できる社会参加の促進	1 障がい者就労促進事業	障がい者就労促進事業
	2 障がいのある人の生きがい活動促進事業	障がいのある人の交流活動促進事業
1 困ったときに頼り合える地域福祉の推進	1 相談支援包括化事業	相談支援包括化事業
	2 自殺対策推進事業	自殺対策推進事業
	3 地域福祉包括的支援事業	在宅療養生活支援事業 アピアランスケア推進事業 犯罪被害者支援事業
	4 恒久平和希求事業	恒久平和希求事業
	5 社会福祉センター管理事業	社会福祉センター管理事業
2 自立支援の推進と包括的支援の充実	1 生活保護事業	生活保護事業 生活保護受給者就労支援事業 生活保護受給者健康管理支援事業
	2 行旅人支援事業	行旅人支援事業
	3 包括的自立支援事業	生活困窮者自立支援事業 住居確保前職者就労支援事業 包括的自立支援事業
	4 国民年金管理事務	国民年金管理事務
	5 市営住宅管理事業	市営住宅管理事業

政策 2－1 地域保健の推進と医療との連携促進

■政策の目的（政策によってめざすまちの姿）

○すべての世代の市民が自分の健康に関心を持ち、ライフステージに応じた健康づくりに主体的に取り組むことで、生涯にわたって健康な生活が続けているまち

■現状と課題

- ・健康でいきいきとした生活を送ることは、すべての世代の誰もが望む願いです。「人生 100 年時代」と言われるように本市の 100 歳以上の人口も年々増加し、健康寿命も男女ともに延びてきています。人生 100 年時代を健康で心豊かに生きていくためには、市民一人ひとりが自分の健康に関心を持ち、発症予防や早期発見・早期治療、重症化予防などに努めながら、主体的に健康づくりに取り組むこと、その取組を社会全体へ広めていくことが重要となります。
- ・令和 22（2040）年頃には団塊ジュニア世代が高齢期に入り、さらに高齢化率が上昇することが予想され、社会保障の経費の増大が懸念されます。本市の国民健康保険被保険者の一人当たり医療費は年々増加し、全国平均や福岡県平均より高い値で推移しており、高血圧や脂質異常症、糖尿病等の生活習慣病関連疾患が多くを占めています。
- ・生活習慣病は予防が可能であり、その発症及び重症化予防に取り組むことが必要です。生活習慣病のなかでも今後は糖尿病患者が増加すると考えられ、糖尿病が骨粗鬆症や認知症に関連があること、要介護（支援）認定者の新規認定に至った原因疾患が、認知症、骨折、筋骨格系疾患、脳血管疾患が多いことから、糖尿病の発症及び重症化予防が最優先の課題と考えられます。
- ・日本人の死因の第 1 位であるがんの罹患率は、本市でも年々上昇しています。特に若い世代のがん罹患は、肉体的、精神的、社会的、経済的、すべてを含めた生活の質の低下にもつながると考えられます。
- ・本市では、地域の公民館等を拠点に健康づくりを進める「ヘルス・ステーション」の設置や「歩いてん道」を活用した地域ウォーキングの開催、産学官が連携した市民の健康づくりの推進、健康づくり等関連サポーターの育成、「健康チャレンジ 10 か条」の普及啓発など、市民が生涯にわたって生きがいを持ち、健やかな生活を送るための支援に取り組んでおり、今後も、地域やさまざまな主体と連携し、市民一人ひとりの健康づくりを支えることが必要です。
- ・かかりつけ医・歯科医を持つことにより、市民が安心して健康について相談でき、病気の早期発見・早期治療など適切な対応につなげることができそうです。
- ・感染予防、症状の軽減及びまん延防止のための予防接種の効果や公衆衛生の向上により、全国的に感染症の罹患率数は減少していますが、結核や麻しん、風しん等については、海外からの渡航者や予防接種未接種者を中心に集団感染が起っています。さらに新型コロナウイルス感染症など新たな感染症への迅速で適切な情報提供や対応が求められています。

■まちの状態・課題指標

指標名	単位	実績					めざす 方向性
		R2	R3	R4	R5	R6	
市民の健康寿命（男性）	歳	81.25	80.76	80.8	80.1	81.0	↑
市民の健康寿命（女性）	歳	84.43	84.01	84.5	82.1	84.2	↑
健康チャレンジ 10 か条の実践度	%			95.1			↑

施策 2－1－1 人とまちの健康づくりの推進

■施策の目標

- ・市民が健康チャレンジ 10 か条を日々意識し実践するなど、若い頃からの生活習慣病の発症及び重症化予防に取り組むことができていく状態

■現状と課題

- ・2040 年頃高齢者人口がピークを迎えるなど、今後の高齢者の増加に伴い、医療・介護・年金等の社会保障関係費の増大が予測されるため、持続可能な社会保障制度を維持することが重要な課題と

福岡県古賀市
第五次総合計画
アクションプラン

1 快適で暮らしやすい 生活環境づくり

仙台市のベッドタウンとして、道路や住宅地などが整備されているよ。住みやすさと自然とのバランスを大切に、暮らしの環境づくりを行うよ。



2 健康で支え合える 地域福祉づくり

みんなが健康で長生きできるようなまちをつかっていくよ。障がいのある人も子どももお年寄りも、地域で支え合えるまちをつかっていくよ。

3 子どもたちの笑顔が あふれる環境づくり

これまで以上に、もっともっと子育て家族をサポートするよ。まちの未来をつくっていくのはキミたちだから、地域のみなさんと力を合わせて、キミたちの成長と学びを応援していくよ。



4 活力のある 地域産業づくり

商工業がにぎわい、働く人や働く場所が増えるよう応援するよ。体験観光や観光プロモーションにも取り組むよ。梨の栽培やカキの養殖など、地域の農林水産業も応援していくね。



みんなで「未来」をかなえるよ

総合計画がめざすまちづくり

キミたちが大人になったときに、「夢」のある「ステキな」利府町になっているように、政策ごとに目標をかがけて、まちづくりを進めていくよ。



5 安心・安全に暮らせる 環境づくり

火災や自然災害、交通事故など、あらゆるリスクに強くしなやかに対応できるよう、取り組んでいくね。水道などのライフラインも、守っていくよ。



6 豊かな心を育む 生きがいづくり

利府町文化交流センター「リフノス」を中心に、芸術・文化、生涯学習、スポーツなど、さまざまな活動を応援するね。みんなが活躍できる社会をめざしていくよ。

7 持続可能な 協働のまちづくり

町民が主役のまちづくりを進めていくよ。そのための人や団体を育てたり支援を行うよ。みんなにまちづくりの情報を知らせたり、満足してもらえる行政サービスを行うよ。



重点戦略

特に力を入れてチャレンジしていくよ。

I 快適な都市空間をつくる

II 魅力ある地域産業をつくる

III 新しい人の流れをつくる

IV 結婚・出産・子育ての
希望がかなう環境をつくる

宮城県利府町
総合計画 2021-30
こども版

2 利便性のある 公共交通の充実



目指す姿

町内における公共交通の利便性が高まり、
利用者が増加しています。

施策の成果指標

公共交通が利用しやすいと感じる市民の割合



SDGs



施策の展開

(1) 需要と特性に即した公共交通網の形成

- 各地区の特性やニーズに合わせ、町民バスの路線再編や品質向上に努めるとともに、路線バスなど地域における輸送資源との連携を推進します。



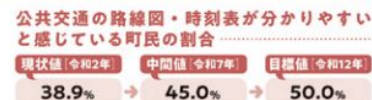
(2) 公共交通の利用環境の改善

- 鉄道とバスの接続の改善を図るとともに、JR利府駅における鉄道の増便に努めます。
- 良好な待合環境や積極的な情報提供を推進します。



(3) 公共交通の利用PRの推進

- 公共交通マップやインターネット、SNSなど新たな媒体を活用した利用PR等により、公共交通利用者の拡大を図ることで、渋滞緩和にもつなげるとともに、各運営主体と連携しながら公共交通の維持に努めます。



- 施策1 良好な都市基盤づくりの推進
- 施策2 利便性のある公共交通の充実
- 施策3 自然豊かな都市景観の保全と環境美化の推進



審議会ロードマップ

第1回
(6月)

第2回
(8月)

第3回
(11月)

第4回
(12月)

第5回
(1月)

目的

課題の共有

方向性の確認

計画案の確認

計画案の確認

答申の検討

審議内容

- 前期KPI進捗
- 住民懇、対話の会、アンケート
- 総合計画方向性案

- 総合計画骨子案

- 総合計画素案
- 行財政改革基本指針、アクションプラン

- 総合計画素案
- 住民懇談会での意見

- 総合計画現案
- パブリックコメント
- 答申案

求める意見

- 課題認識は妥当か
- 不足している住民の声はないか
- 方向性は適切か

- 方向性は適切か
- 優先順位は妥当か

- 施策、目的、KPIは適切か
- 行財政改革と整合性は取れているか

- 住民意見は十分に反映されているか
- 不足している視点や修正点はないか

- 分かりやすいか
- 将来に責任を持てる計画か
- 答申案として妥当か